

工9A6

70
22

法學士竹村利三郎先生著

改正刑法釋義

東京大學館發兌

90-228

法學士竹村利三郎先生著

改正刑法釋義

東京大學館發兌

40 5 28

內空

序

著者淺學未ダ刑法ノ蘊奧ヲ究ムルニ至ラズ頃者新法典ノ成ル
ヤ書肆頻リニ之ガ釋義ヲ請フテ止マズ忽卒ノ際稿ヲ脱スルモ
ノ遺逸亦少ナカラザルベシ刊行ノ後ト雖モ筆ヲ措カズ幸ニ版
ヲ重ヌルノ日アラバ其全キヲ期セントス
法ハ經國ノ大典人倫ノ常則ナリ之ヲ見ル人ニ因テ異ナル所多
シ法理ノ適切又時ニ因テ異ナル終始一貫ノ理論ヲ以テシテハ
或ハ實例ニ副ハザランコトヲ虞ル後學ノ士ト共ニ勉勵倦マズ
ンバ或ハ其レ全キヲ期スルヲ庶幾スルヲ得ン歟

明治四十年四月

著者 識

改正刑法釋義目次

緒論

第一編 總則

第一章 法例	三
第二章 刑	二六
第三章 期間計算	四二
第四章 刑ノ執行猶豫	四四
第五章 假出獄	五〇
第六章 時效	五四
第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免	五八
第八章 未遂罪	七〇
第九章 併合罪	七四

第十章 累犯……………二六

第十一章 共犯……………二七

第十二章 酌量減輕……………二八

第十三章 加減例……………二九

第一編 罪

第一章 皇室ニ對スル罪……………一九

第二章 内亂ニ關スル罪……………二〇

第三章 外患ニ關スル罪……………二〇

第四章 國交ニ關スル罪……………二一

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪……………二二

第六章 逃走ノ罪……………二三

第七章 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪……………二四

第八章 騷擾ノ罪……………二五

第九章 放火及ヒ失火ノ罪……………二五

第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪……………二六

第十一章 往來ヲ妨害スル罪……………二六

第十二章 住居ヲ侵スル罪……………二七

第十三章 祕密ヲ侵スル罪……………二七

第十四章 阿片煙ニ關スル罪……………二七

第十五章 飲料水ニ關スル罪……………二八

第十六章 通貨偽造ノ罪……………二八

第十七章 文書偽造ノ罪……………二九

第十八章 有價證券偽造ノ罪……………二九

第十九章 印章偽造ノ罪……………二九

第二十章 偽證ノ罪……………二九

第二十一章 誣告ノ罪……………三〇

第二十二章 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪……………三〇

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪……………二二三

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪……………二二七

第二十五章 瀆職ノ罪……………二二四

第二十六章 殺人ノ罪……………二四〇

第二十七章 傷害ノ罪……………二五四

第二十八章 過失傷害ノ罪……………二五九

第二十九章 墮胎ノ罪……………二六一

第三十章 遺棄ノ罪……………二六六

第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪……………二六九

第三十二章 脅迫ノ罪……………二七〇

第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪……………二七五

第三十四章 名譽ニ對スル罪……………二八九

第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪……………二八三

第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪……………二八四

刑法釋義目次畢

第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪……………二九五

第三十八章 横領ノ罪……………三〇一

第三十九章 贓物ニ關スル罪……………三〇五

第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪……………三〇八

改正刑法釋義

法學士 竹村利三郎著

緒論

法ハ人類ノ生理的組織ニ基キテ發生ス、禽獸ハ各自敵ヲ防グノ機關ヲ有スルモ人類ノ之ヲ有セズ故ニ心意ヲ勞シテ種々ノ防衛ノ器ヲ作ラザルベカラズ然レドモ之ノミニテハ未ダ以テ充分ナリト云フヲ得ズ茲ニ團結ノ必要ヲ感ズ團體一度生ズレバ其團體ノ分子タル個人ノ生存ノ外ニ團體ノ生存ヲ圖ラザルベカラズ人ハ自然意思ト腕力トヲ有スルガ故故意思ノ衝突腕力ノ衝突ハ免ルヲ得ザルナリ、團體ガ生存スルニハ是等意思ノ衝突ヲ避ケ其秩序ヲ維持スル爲ニハ各人及ヒ團體ノ行動ノ範圍ヲ定メサルベカラズ其關係ヲ見ル時ハ一ハ團體ト團體及ヒ個人間ノ關係ニシテ二ハ團體員タル個人相互ノ間ノ關係アリ

國家ハ最モ完全ナル團體ナリ、國家ト國家又ハ他ノ團體若クハ個人間ノ規定ハ公

法云云私人相互間ノ規定ハ私法ナリ
刑事法ハ公法ノ一種ニ屬ス廣義ニ於ケル刑法ハ刑事法ノ一部ヲナス刑事法ハ刑
罰權ノ實體ト運用トヲ定メタルモノニシテ刑法ハ實ニ其實體ヲ定メタルモノ即
チ實體法ナリ運用方法ヲ定メタルハ刑事訴訟法其他之ニ類スル法規ナリ
廣義ノ刑法ハ總テノ刑罰權ノ實體ヲ定メタルモノニシテ狹義ノ刑法ハ其一部ナ
リ
狹義ノ刑法トハ即チ此刑法々典ヲ指スモノニシテ本書講ズル所ハ此刑法々典ニ
アリ其他ノ刑法ハ幾多ノ單行法ヲ以テシ又ハ他ノ法令ニ附加セラレタリ縣或ハ
廳ニテ發ス違警罪ノ如キ徵兵令ノ罰則ノ如キ之ナリ
舊刑法ハ明治十三年ノ制定ニ係リ明治十五年一月ヨリ實施セラレタリ爾來二十
有餘年茲ニ新法典ノ發布ヲ見タリ舊刑法ハ裁判官ニ自由裁量ヲ與フル刑ノ範圍
狹キニ失スルノ嫌アリ新法ハ大ニ之ヲ擴大セリ一得一失ハ事物ノ通則ニシテ裁
判官其人ノ宜シキヲ得ルニアラズンバ或ハ不幸ノ結果ヲ生ズルニ至ラン法ヲ操
ル者豈慎マザルベケンヤ

本 論

第一編 總 則

第一章 法 例

本章ニ於テハ如何ナル場所ニ於テ犯罪ガ犯サレタル時ニノミ刑法ヲ適用シ
テ罰スルカ又如何ナル人ニ此刑法ヲ適用スルヤ又何時以後何時以前ニ犯サ
レタル犯罪ニ此刑法ヲ適用スルヤ又此刑法々典ノミナラズ他ノ刑罰法令ト
ノ關係ハ如何ト云フ重ニ刑ノ適用ノ原則ヲ定メタルモノナリ

第一條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ
之ヲ適用ス

帝國内ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同
シ

本條ノ大意 本刑法ニ規定セル刑罰ハ何國ノ人タルヲ問ハズ總テ帝國

ノ領土内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ適用シ之ヲ罰ス
帝國ノ領域外ニアル帝國ノ船舶ハ他國ノ領海内ニアルト、公海ニ在ルトヲ問ハ
ス、其船舶内ニ罪ヲ犯シタル者ニハ此刑法ヲ適用スルコトヲ定メタル原則ニシ
テ、之ニハ數多ノ例外アルコトヲ忘ルベカラズ、

(註解)

第一、條文ニ本法トアルハ此刑法々典ヲ指スモノニシテ以下總テ斯ノ如シ
第二、何人ヲ問ハストハ人類タル以上ノ何人ニテモノ意味ニシテ、日本人タ
ルト、外國人タルト、無國籍人タルト、失踪ノ宣告ヲ受ケタル者タルトヲ問ハズ

帝國ノ領土内ニ於テ犯罪ヲ犯シタル時ハ處罰スルモ、之ニハ國法上ノ理由ニ
基ク例外ト國法上ノ慣例又ハ條約ニ基ク例外トアリ

(一) 國法上ノ理由ニ基ク例外 即チ是等ニ該當スル人ハ此刑法ノ適用ヲ受ケ
ズ、處罰セラレザルナリ

(イ) 天皇(憲法三)

(ロ) 攝政

(ハ) 帝國議會ノ議員 ハ議院内ニ於テ發言シタル意見並ニ表決ニ付キ院

外ニ於テ其責ヲ負ハザルノミ、之ニ對シテ刑法ヲ通用スルヲ得ズ

意見並ニ表決以外ノ行為又ハ是等ノ行為モ、院外ニ於テ爲シタル時ハ、此
刑法ノ適用ヲ受ケ處罰セララル、ヲ妨ゲズ

(二) 國際法上ノ理由ニ基ク例外 (治外法權)

(イ) 外國ノ君主、大統領、其家族及但シ從者從者ガ日本人ナル時ハ、此刑法ノ
適用ヲ受ク

(ロ) 外國ノ使節、全權大使、全權公使、辦理公使、代理公使等並ニ其隨員、即チ書
記官、參事官、書記生、大使館付又ハ公使館付武官是等ノ各家族、雇員從者等
之ナリ、從者ガ本邦人ナレバ前述ノ如ク適用ス

外國ノ領事、貿易事務官等ハ交際官ニアラズ原則トシテハ刑法ノ適用ヲ
受クベキモノナルモ、現今多數ノ國ハ特ニ條約ヲ以テ駐在國ノ刑法ヲ適
用セザルコトヲ定メアリ

(ハ) 內國ニ駐屯スル外國ノ軍隊、外國軍隊ガ內國ニ駐屯スルニハ、承認ヲ經

ルコトヲ要ス承認ヲ得テ駐屯スル外國ノ軍隊ハ治外法權ヲ有ス故ニ此
 刑法ノ適用ヲ受ケズ總テ自國法ノ適用ヲ受ケ
 以上ハ軍隊ニ限ルモノニシテ隊ヲ離レタル其ノ一員ニ對シテハ最早此特
 權ナシ

(三) 内國ノ領海ニ碇泊スル外國ノ公船外國ノ軍艦内ノ犯罪モ定期航海ヲ
 爲ス公船内ノ犯罪モ此刑法ノ適用ナシ商船ニ付テハ議論アリ領海内ヲ
 通過スル際ハ此刑法ノ適用ヲ受ケザルモ領海内ニ碇泊スル間ハ此刑法
 ノ適用ヲ受クトナス説アリ法理論トシテハ正當ナルモ刑法第一條第二
 項ノ規定アリテ外國ノ領海内ニ碇泊セル日本船舶内ノ犯罪ニ日本ノ刑
 法ヲ適用ストセバ外國ノ船舶ガ日本ノ領海内ニ碇泊スルモ其船内ノ犯
 罪ニ對シ日本刑法ヲ適用スルヲ得サルベシ是等ハ條約ヲ以テ明定シ置
 クノ必要アリ

身分ニヨリテ日本刑法ノ適用ナキ場合ニ其資格ノ消滅スルモ身分ヲ有シタ
 ル時ニ於ケル犯罪ニ對シ刑法ヲ適用スルヲ得ズ例ヘバ外國ノ公使ガ犯罪ヲ

犯シ治外法權ヲ有スルガ故日本刑法ノ適用ヲ受ケザルニ後其公使タル身分
 ヲ消滅シ單ニ一外國人タルニ過ギザルニ至ルモ公使タリシ時ニ爲シタル犯
 罪ニ對シ刑法ヲ適用スルヲ得ズ

第三 帝國内トハ日本帝國ノ領土領海(領海ハ干潮ノ時陸岸ヨリ三海里以内ニ
 シテ内海、港灣、ハ其海峽又ハ入口ガ總テ兩岸ヨリ六海里以内ナル時ハ其内部
 ノ海峽ヲ問ハズ領海租借地之ナリ

租借地ハ近時國際法上產出セラレタル一新現象ニシテ議論ノ存スル所ナル
 モ通説ハ領域内ト同様ノ見解ヲ採レリ

刑法ハ原則トシテ帝國内ノ犯罪ニ付キ適用アリ例外トシテ帝國内ノ或部分
 ニハ行ハレザルコトアリ又帝國外ニ犯サレタル犯罪ニ就テ適用スルコトア
 リ

(一) 帝國内ノ或部分ニ行ハレザル刑罰ハ府縣知事ノ發スル違警罪令ノ如キ
 モノニ多ク舊刑法時代ノ臺灣ノ如キナルモ新刑法ハ是等ノ部分ナシ
 (二) 帝國外ニ犯サレタル犯罪ニ付テモ本刑法ノ適用アルハ第一條第二項及

ト第二條以下第五條ニ至ルマデノ規定ナリ、此所ニハ第一條第二項ノミヲ説ク

第四、帝國外前述ノ帝國内ニアラザル總テハ場所ハ帝國外ナリ

第五、帝國船舶ハ船舶法ノ規定スル所ニシテ帝國ノ國旗ヲ掲ゲタル船舶ナリ、帝國ノ國旗ヲ掲ゲ得ル又掲ゲザルベカラサル船舶ハ次ノ如シ

(イ) 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶

(ロ) 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶

(ハ) 日本ニ本店ヲ有スル商事會社ニシテ合名會社ニアリテハ社員ノ全員、合資會社及株式合資會社ニアリテハ無限責任社員ノ全員株式會社ニアリテハ取締役ノ全員日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

(ニ) 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員ガ日本臣民ナル者ノ所有ニ屬スル船舶

(ホ) 舊商法ノ規定ニ從ヒ設立シタル合資會社ニアリテハ業務擔當社員ノ全員ガ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶

以上ノ船舶ハ帝國船舶ナリ軍艦ハ普通ニハ船舶ノ一種ナルモ、此法文ニ云フ所ノ船舶ニアラズ

次ニ法文ニ示サハル帝國外ノ犯罪ニ對シ刑法ノ適用アルハ次ノ如シ、

(一) 戰時我軍隊ノ占領セル外國ノ領土

(二) 條約ニヨリテ我國ニ領事裁判權ヲ有スル外國領土此レ條約ノ明文ニ待ツベク日本臣民ノミニ付テ適用アルナリ

又此刑法ハ一般的ノ法律ナルガ故ニ、特別法が存在スル場合ニハ、特別法ノ適用アルモノニシテ隨テ本法ハ適用ナシ、軍人ナル身分アル者ニハ本法ヲ適用セズ、陸海軍ノ刑法ヲ適用スベク特ニ明文ヲ要セザルナリ

第二條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

一 第七十三條乃至第七十六條ノ罪

二 第七十七條乃至第七十九條ノ罪

- 三 第八十一條乃至第八十九條ノ罪
- 四 第四百十八條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 五 第五百十四條、第五百十五條、第五百十七條及ヒ第五百十八條ノ罪
- 六 第六十二條及第六十三條ノ罪
- 七 第六十四條乃至第六十六條ノ罪及ヒ第六十四條第二項、第六十五條第二項、第六十六條第二項ノ未遂罪

本條ノ大意

本刑法ハ原則トシテ帝國内ノ犯罪ニ付テノミ適用アルモノナルモ、若シ絕對ニ此原則ニノミ限ランカ國家ノ生存ヲ危クスルノ結果ヲ來スコト少ナカラズ、故ニ一定ノ本罪ニ限リテ廣ク帝國外ノ犯罪ニ付テモ之ヲ處罰シ、以テ國家生存ノ目的ヲ達セザルベカラズ、本條及ビ第三條、第四條、第五條ノ如キハ此趣旨ニ出デタルモノナリ、本條モ前條ノ例外ハ適用アリ、然リ其適用ア

ルニハ、二ツノ要件ナカルベカラズ、(一)帝國外ノ犯罪ナルコト、(二)及ビ本條ニ列擧シタル犯罪ニノミ限ルコト之ナリ

(註解)

第一、帝國外ナルコトヲ要スルハ本條ノ要素ナルガ、此帝國外ナル文字ハ第一

條第二項ノ帝國外ナル文字ト同一ノ意義ニアラズ、第一條第二項ハ帝國内ニアラザル總テノ場所ヲ云フモノナルモ、本條ハ帝國内ニアラザルコト及ビ帝國外ノ帝國船舶内ニアラザル總テノ場所ヲ指稱ス、何トナレバ帝國内ニアル帝國船舶内ノ犯罪ハ總テ本刑法ノ適用ヲ受クルモノニシテ第一條第二項ニ據ルベク、本條ニハ關係ナキモノナリ

第二、本條列擧ノ第一號ヨリ第七號ニ至ル犯罪ニノミ適用スベク、其他ノ犯罪ニハ本條ヲ適用スルヲ得ズ

犯人ガ犯罪ヲ犯シタル場合ニ果シテ其犯罪ガ本條ノ罪ニ該當スルヤ否ヤハ、判決ヲ待タザレバ決スルヲ得ズ、若シ逮捕セラレ審理ノ上本條ニ該當セザル犯罪ナル時ハ無罪タルカ、又ハ他ノ條文ニヨリ處罰セラルコトアルベキモ本

條ノ適用ナシ列舉セラレタル事項ハ各其條文ニ付キ説明ヲ見ルベシ

第三條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

- 一 第八條、第九條第一項ノ罪、第八條、第九條第一項ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪及此等ノ罪ノ未遂罪
- 二 第一百九條ノ罪
- 三 第一百五十九條乃至第六十一條ノ罪
- 四 第六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪
- 五 第七十六條乃至第七十九條、第八十一條及第八十四條ノ罪
- 六 第九十九條、第二百條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 七 第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪

八 第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪

九 第三百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

十 第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪

十一 第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪

十二 第二百三十條ノ罪

十三 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條及ヒ第二百四十三條ノ罪

至第二百四十一條及ヒ第二百四十三條ノ罪

十四 第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪

十五 第二百五十三條ノ罪

十六 第二百五十六條第二項ノ罪

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ

付キ亦同シ

本條ノ大意

本條モ帝國外ニ於ケル犯罪ニ本刑法ヲ適用スルコトヲ規定セルモノニシテ、此列舉事項ノ犯罪者若クハ被害者ガ少クトモ日本帝國ノ臣民タルコトヲ要スルナリ、外國ニ於テ此犯罪アルモ日本裁判所ハ直ニ本法ヲ適用スルヲ得ズ必ズ條約其他慣例ニ依リテ犯人ノ引渡シヲ求メ又ハ犯人ガ日本帝國ノ刑罰權ノ及ブ所ニ現在スルヲ要ス、犯人引渡ハ後ニ述ブベシ

本條ノ要件トシテハ少クトモ(一)帝國臣民ガ犯罪者又ハ被害者ノ一方ナルコト、(二)帝國外ノ犯罪ナルコト、(三)列舉シタル犯罪ニ限ルコトノ三要件ヲ具備セザルベカラズ、外國人間ノ犯罪ニシテ帝國外ニ於テ然モ帝國船舶外ニ於ケル犯罪ハ例令本條列記セル犯罪ノ一ニ該當スルモ此刑法ノ適用ナシ

〔註解〕

- 第一、帝國外ナルコト、帝國外トハ第二條ト同一意義ニシテ第一條ノ帝國船舶ハ除外シタルモノナリ
- 第二、本條列記事項ニ該當スル犯罪ナルコト、此各條ハ各其所ニ於テ説明ス

第三

帝國臣民ガ少クモ犯罪者又ハ被害者ノ一方ナルコト、人民ハ總テ帝國臣民外國人ノニ分チ又ハ外國人中ニ無國籍人ヲ包含セシメズシテ、用フルコトアリ、本條第二項ノ外國人トハ無國籍人ヲ包含ス、故ニ外國人トハ帝國臣民ニアラザル人類ヲ云フモノナリ

帝國臣民トハ如何ナル臣民ヲ指スヤ、國籍法ノ規定ニ依レバ次ノ者ノミヲ指ス、國籍法第一條乃至第七條ヲ參照スベシ

- 一、日本人タル父ノ子ナルカ
- 二、父ガ不明又ハ無國籍人ナル場合ニハ日本人タル母ノ子ナルカ
- 三、父母共ニ不明ナルカ又ハ共ニ無國籍ナルトキ日本ニ於テ生レタルカ
- 四、外人ナリシモ日本人ノ妻トナリシカ
- 五、外人ナリシモ日本人ノ人夫トナリシカ
- 六、外人ナリシモ日本人ニ認知セラレタルカ
- 七、外人ナリシモ日本人ノ養子トナリシカ
- 八、外人ナリシモ日本ニ歸化シタリシカ

九、土地割譲ノ場合ニ日本ノ國籍ヲ撰擇シタリシカ
 以上ノ中其一ニ該當スル者ハ日本臣民ナリ國籍法ハ國ニ因リ異ナルガ故時
 ニ或ハ日本臣民タル身分ト或外國人タル身分トノ二者ヲ併有スルコトアリ、
 此場合モ日本臣民タル身分ヲ有スル以上ハ日本臣民トシテ處罰セラル、モ
 ノナリ

第四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝
 國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

- 一 第一百一條ノ罪及ヒ其未遂罪
 - 二 第一百五十六條ノ罪
 - 三 第九十三條、第九十五條第二項、第九十七條ノ罪
 及ヒ第九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ
 致シタル罪
- 本條ノ大意 一定ノ職務ヲ有スル者ハ其職務ニ付キ一定ノ義務ト權利

トヲ有ス義務ヲ怠リ又ハ權利ヲ濫用スルガ如キハ大ニ危險ナルガ故其制裁ナ
 カルベカラズ本條ハ帝國外ニ於テ帝國ノ公務員ガ犯罪ヲ犯シタル場合ニ適用
 アルモノニシテ三要件アリ(一)帝國外ニ於テ犯罪ヲ犯シタルコト(二)帝國ノ公務
 員ガ犯シタルコト(三)本條列舉ノ犯罪ニ限ル

(註解)

第一、帝國外トハ第二條第三號ト同一ノ意義ヲ有スルモノナリ
 第二、帝國ノ公務員トハ第七條ニ立法解釋ヲ與ヘラレタリ故ニ茲ニ述ベズ
 第三、列舉セラレタル犯罪ハ各本條ニ述ブベキモ唯ダ第三號未段因テ人ヲ死
 傷ニ致シタル罪ニ付キ説明セン
 因テトハ其犯罪ニ原因シテ人ガ死傷ト云フ結果ヲ惹起スルヲ云フ、
 人ヲ死傷ニ致ストハ學者ノ所謂結果犯ト稱スルモノナリ結果犯トハ一定ノ
 罪トナルベキ行為ニ特別ノ結果ノ加ハルニ因リテ別ノ一罪トナリ又ハ重加
 セラル、犯罪ナリ結果犯ノ特質トシテ結果ノ豫見ヲ必要トセズ其結果ハ死
 又ハ傷ナリ例ヘバ巡查ガ被告人ヲ護送スル場合ニ被告ニ暴行ヲ加ヘ被告ガ

之ニ原因シテ死亡又ハ創傷ヲ來スガ如シ暴行者タル巡査ハ此場合死亡又ハ創傷ヲ來スベキコトヲ豫見セズ單ニ毆打スル考ヘテリシトスルモ斯ル結果ヲ生セバ本條ノ適用ニ妨ゲナキモノトス

第五條 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行為ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但シ犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

本條ノ大意 外國ニ於テ裁判ヲ受ケ此裁判控訴又ハ上告故障申立期間ヲ經過シテ爲ニ確定セル場合ニ於テモ其犯罪行為(即チ同一ノ犯罪ニ付キ更ニ日本帝國ニ於テ處罰スルヲ得ルモノナルコトヲ示シタリ然レドモ其犯罪人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑罰ノ全部又ハ一部分ニ付キ刑ヲ執行セラレタル時ハ事情ニ鑑ミ裁判官ハ刑ノ執行ヲ減輕シ又ハ全部ノ刑ヲ免除スルコトヲ得ルナリ本條ヲ一讀スル時ハ外國ニ於テ言渡シタル判決ヲ直ニ日本帝國內ノ監

獄署ニ於テ刑ヲ執行シ得ルガ如キ感アルモ實ハ然ラズ必ズヤ日本帝國ノ裁判所(領事館)モノ判決ニヨリ執行セザルベカラズ

一事不再理ノ原則ト本條トノ關係ニ付キ述ブル所アラントス
國內ニ於テハ確定裁判ノ效力ハ一事不再理ノ原則ヲ生ズ
一事不再理トハ同一事件即チ同一ノ被告人ニ對スル同一犯罪事實ニ付キ多數ノ訴訟ガ生ゼザルヲ云フモノナリ然レドモ外國裁判所ノ判決ハ內國ニ於テ確定力ヲ有セズ故ニ同一所爲ニ付キ內國ニ於テ更ニ處罰スルヲ妨ゲザルナリ

(註解)

第一、外國トハ國外ノ意味ニハアラズ或主權ヲ有スル國家内ニシテ我國ニアラザルノ意ナリ

第二、確定裁判トハ裁判ノ確定ノ意ナリ一定ノ事件ニ付キ將來ニ向テ權利ヲ確定スル裁判ノ性質ヲ云フ裁判ノ確定スルニハ上訴期間ノ經過又ハ上告審ノ判決故障申立期間ノ經過等ニヨリ確定ス

裁判ニ種々アリ本案ノ判決之ニ有罪無罪ノ判決公訴受理スベカラザル判決

豫審免訴ノ終結決定等總テ之ナリ

第三、同一行為トハ犯人ガ同一ナルコト、其所爲ガ同一ナルコト之ナリ、同一所爲トハ犯罪事實ガ同一ナルコトヲ意味スルモノニシテ、犯法ノ罪名ノ變換アルモ同一所爲ニアラズト云フヲ得ザルナリ、動作又ハ結果ヲ標準トシテ之ヲ見サルベカラズ

第四、更一處罰スルヲ妨グズトハ外國ニ於ケル確定裁判ガ我國ニ於テ確定力ナク、一事不再理ノ適用ナキコトヲ示セルモノナリ

第五、外國ニ於テ言渡サレタル、刑ノ中ニハ我領事裁判ニヨリ言渡サレタル罪ヲ包含セズ、故ニ領事裁判ニヨレルハ一事不再理ノ適用アリ

第六、刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得之レ裁判官ノ認定ニ任セタルモノニシテ、例ヘバ第二條ノ犯罪ヲ外國ニ於テ犯シ、外國裁判所ノ闕席判決ヲ受ケ日本ニ其犯入現在スル場合ノ如キ之ナリ

第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

本條ノ大意 本條ハ新舊刑法ノ比照例ヲ示セルモノニシテ、舊刑法第三條ト同趣旨ナリ、犯罪ノ後、裁判言渡前ニ法律ガ變更セラレタル場合ニハ、其犯罪ニ付キ新舊刑法ノ何レガ輕キヤヲ檢シ、其輕キ刑ヲ適用ス、若シ數度刑法ノ變更アリタル時ハ、其新舊數法ノ中最モ輕キモノヲ適用スベキモ、犯罪行為以前ノ刑法又ハ裁判確定後ハ其輕キ刑ニ從テ處斷スルヲ得ザルナリ、法律ノ效力ガ一時停止セラル、場合ハ、比照例ニヨルヲ得ズ、又新舊ノ刑法ニ刑ノ輕重ナキトキハ犯罪當時ノ刑法ニヨリ處斷ス

刑ノ輕重ハ後條ニ比較法アリ

(註解)

第一、犯罪後ノ法律トハ犯罪ノ着手ヨリ終了マデノ犯罪ナリト雖モ、法文ニ特ニ豫備行為ヲ罰スル時ハ之レ亦犯罪ナルガ故、各法文ノ條項ニ付キ定メザルベカラズ、犯罪後ノ法律トハ其法律ノ公布ヲ標準トセズシテ、全ク遵由ノ效力ヲ生ズル時期ヲ以テセザルベカラズ

第二、變更トハ前述ノ如ク法文ノ變更ヲ意味セズシテ、遵由ノ效力ヲ標準トス

ルガ故ニ例令舊刑法ガ廢止セラレ、モ新刑法ノ遵由ノ效力發生セザル間ハ效力ナキガ故處罰スルヲ得ズ遵由ノ效力ハ何時ニ發生スルヤハ明文ニ由テ定ムベク何等明文ナキ時ハ法律ハ法令第一條ニヨリ公布ノ後二十日ヨリ命令ノ中勅令閣令省令等ハ公式令ニ從テ公布ノ日ヨリ二十日、其他ノ府縣令ノ如キハ公布ノ日ヨリ七日ヲ以テスルヲ原則トシ一定ノ場所ニハ特ニ定メアリ(二十六年勅令第百九十九號參照)

遵由ノ效力發生ノ日ヨリ廢止ノ日マデハ變更ナキ刑法ナリト云フベシ

第三、輕キモノヲ適用ス、トハ同一犯罪ニ就テ云フモノナレバ舊法ニ罰セシ罪ガ新刑法ニ罰セザルニ至レバ罰スルヲ得ズ、又新ニ刑罰ヲ設クルモ其遵由ノ效力發生前ノ行爲ニハ適用スルヲ得ズ、數度變更アリタル時ハ其中ノ最モ輕キモノヲ適用ス、輕重ハ後條ニ比較法アリ

第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ
公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

本條ノ大意 本條ニハ此刑法ニ於テ公務員及ビ公務所ノ何タルカヲ立法解釋ニヨリテ定メタルモノナリ、次ニ詳説スベシ

(註解)

第一、公務員トハ次ノ如キモノナリ

(イ)、官吏トハ一般臣民ノ法律上ノ義務ニ基カズシテ國家事務ヲ行フベキ公法上ノ服從義務ヲ負擔シ又ハ負擔スベキ義務ヲ負ヘルモノニシテ任命ニヨリ特定ノ關係ヲ有セルモノナリ、或人ガ官吏ナルヤ否ヤハ任命ニヨリ決スルモノナリ

(ロ)、公吏トハ地方自治團體ニ屬スル行政事務ヲ執行スル吏員ヲ云フモノナルモ其資格ヲ得ルニハ一定ノ形式ナシ各場合ニ付キテ研究スルヲ要ス大審院ノ判例ニ公證人ハ公吏ニアラズトセリ

(ハ)、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、國會、府縣會、郡會、市町村會議員等法令ノ規定ニ從テ選舉セラレタル者ヲ云フ

(ニ)、法令ニ依リ公務ニ從事スル委員其他ノ職員トハ文字ノ示ス如ク總テヲ

包含スルモノニシテ殆ンド説明ノ要ナシ雇傭契約ニヨリテ從事スル者モ包含スベキカ

第二、公務所トハ公務員ノ職務ヲ行フ場所ヲ總稱スルモノニシテ、建造物内ナルト否トハ之ヲ問ハス、又一時的ノ場所ナルモ可ナリ
終リニ一言スベキハ法令ニ於テ准官吏ノ取扱ヲ受クル者即チ小學校長陸軍上等兵ノ如キ之ナリ、是等モ皆公務員ナリトス兵卒ハ疑問ナリ

第八條

本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦

之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニアラズ

本條ノ大意

本刑法ノ第一編ニ規定セル即チ總則ガ如何ナル法令ニマデ適用アルカヲ定メタルモノナリ、刑罰ヲ規定スルハ此刑法ノミニ限ルモノニアラズ、其他ノ單行法ニ甚ダ多シ、其レ等ノ單行法ニ悉ク總則ヲ附スルハ手續ヲ繁雜ニシ、且法典ノ体裁ヲ得ザルガ故ニ刑法ヲ根本ノ法トシ特別ノ明文ナキ場合ニハ、此總則ノ適用アルコトヲ示セルモノナリ

(註解)

第一、總則トハ本則總編ノ全部ヲ云フモノナリ、即チ第一條ヨリ第七十二條マテヲ云フ

正當防衛ト云フモ此總則ニヨリ意味ヲ定ムルガ如シ

第二、他ノ法令トハ此法典以外ノ法令ノ意ナリ

法令トハ法律命令ノ二者ヲ云フモノニシテ法律ト命令トハ其制定手續ヲ異ニスルモ臣民其他人民ニ遵由ノ效力ヲ生ズルハ二者一ナリトス

法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ裁可公布セラレタルモノニシテ、命令ハ大權ニ基キテ發シ又ハ發セシメラレタルモノナリ、全ク手續上ニ相異ナルガ爲メノ區別ニ過ギズ

命令ニハ勅令閣令省令府縣令、北海道廳々令、警視廳令郡令及市町村條令等アリト雖モ、本總則ノ適用アルハ其性質上刑ヲ定メタル法令ニノミ限ルモノナリ

第三、法令ニ特別ノ規定アルトハ刑法總則ノ規定ヲ適用セズト明記シアル場合ヲ云フモノニシテ例ヘバ酒造税法第三十一條ノ如キモノ之ナリ

(補遺) 外國ニ於テ本刑法ニ觸ルベキ犯罪者アル時ハ、本刑法ヲ適用スル爲ニハ犯人ヲ逮捕スルノ必要アリ、然レドモ國權ハ外國内ニ及バザルガ故直ニ之ヲ逮捕スルヲ得ズ必ズ其國ノ權力ヲ假ラザルベカラズ、其權力ニヨリテ犯人ノ引渡シヲ受クルナリ

犯罪人引渡シハ條約又ハ慣例ニヨルモノニシテ然ラザル以上ハ引渡スト否トハ各國ノ自由ナリ、日米間ニハ此條約アリ

犯人引渡ニ對スル制限ハ

(イ) 自國民ハ外國ノ處罰ノ爲ニ引渡サズ

(ロ) 政治犯者ハ引渡サズ

(ハ) 犯罪國ニテ處罰スル必要アル時ハ引渡サズシテ罰シ得ベシ
其他二三ノ制限アリ

第二章 刑

本章ニハ刑ノ種類輕重比較法、刑ノ範圍、刑ノ執行方法、加重減輕ノ範圍、科料ト

換刑ニ關スル方法、附加刑未決拘留ニ關スル規定等總テ刑ニ關スル規定ヲ爲セリ

刑罰トハ國家ガ犯罪ノ制裁トシテ私人ノ利益ヲ剝奪スルヲ謂フモノニシテ、苦痛ヲ加フルハ刑ノ本旨ニハアラズ、犯罪ヲ撲滅スルノ必要上適宜ノ手段ヲ採ルモノニシテ能フベク、愉快ヲ興フルモノ可ナルモノナリ

古來ハ刑ノ苛酷ナルモノ甚ダ多數ナリシモ、今日ニ至リテハ甚ダ少ナク、生命刑ハ僅ニ存スルノミトナレリ、死刑廢止論者亦少ナカラズ、刑ニ至列ト附加刑トアリ

第九條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ、沒收ヲ附加刑トス

本條ノ大意 刑ノ種類トシテ主刑、附加刑アリ、主刑ハ如何ナル種類ノ刑ヲ包含シ、附加刑ハ何ナリヤヲ示セルモノニシテ、總テノ刑罰ハ此種類ヲ出デザルナリ

主刑ハ獨立シテ之ヲ科スルコトヲ得、附加刑ハ主刑ニ隨伴シテノミ之ヲ科スル

コトヲ得

(註解)

- 第一、死刑ハ生命刑ニシテ最重罪ニ科スルモノナリ其執行ハ獄内ニ於テ絞罪ニシテ執行スルモノナリ
 - 第二、懲役禁錮拘留之レ自由刑ニシテ一私人ノ自由ヲ剝奪スル刑ナリ懲役ハ定役ニ服シ禁錮ハ定役ナキノ別アルノミ拘留ハ定役ナキモ期間ニ制限アリ又裁判ニ依ラズ違警罪即決ノ如キ行政處分ニヨリテ科スルヲ得ベシ
 - 第三、罰金科料財産刑ニシテ二者ノ別ハ其額ニ制限アルト否ト及ビ行政處分ニヨルト否トニアリ舊刑法ニハ附加刑ニモ之ヲ認メタルモ新刑法ハ主刑ニノミ限レリ
 - 第四、沒收之レ財産刑ノ一種ニシテ且ツ附加刑ニ限レリ其沒收シ得ルモノハ後ニ述ブベシ
- 舊刑法ニハ此外名譽刑能カ刑アリシモ新刑法ハ是等ヲ削除シタルモ他ノ法令ニ讓レルナリ

第十條

主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス

二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

本條ノ大意

本條ハ主刑ノ輕重ヲ定メタルモノニシテ其輕重ハ第九條

ノ順序ニ從フモノナリ即チ死刑ヲ最モ重シトシ科料ヲ最モ輕キモノトス然レドモ各刑相互ノ間ニ又比較方法ナカルベカラズ即チ

- (一) 無期禁錮ト有期懲役ハ禁錮ヲ重シトス
- (二) 有期禁錮ノ長期ガ有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユル時ハ禁錮ヲ重シトス

(三) 同種ノ刑ハ長期又ハ多額ヲ以テ標準ヲ定ム
 (四) 多額又ハ長期ガ同ジキ時ハ短期又ハ寡額ヲ標準トシ是等ノ長キモノ又ハ多額ノモノヲ重シトス
 (五) 標準總テ同ジキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ムベキナリ

(註解)

第一、有期無期ハ裁判所ノ宣告スル刑ヲ云フニアラズ各條文ニ記載セル範圍アリ其範圍ノ重キ限度ヲ意味スルモノナリ
 第二、長期短期之レ亦前述ノ如ク各法文ニ記載セルモノヲ云フ例ヘバ第二五十八條ニ於テ三月以上トアルハ短期ニシテ七年以下トアルハ長期ナリ今之ヲ第二五十三條ト比較スルニ茲ニ甲犯人アリ第二五十三條ノ罪ヲ犯シ三年ノ懲役ヲ宣告セラレ他ノ犯人乙ハ第二五十八條ノ罪ヲ犯シ四年ノ懲役ニ處セラレタリトスルモ甲乙二者ノ刑ノ輕重ハ宣告セラレタル三年ト四年トヲ比較セズシテ各其法文ノ長期即チ十年ト七年トヲ比較シ甲ノ犯罪ヲ以テ重シトナス短期ヲ比較スル場合亦同ジク罰金ニ付テモ同様ナリ

第三、二個以上ノ同ジ長期同ジ短期同種ノ刑其他之ニ準ズルモノハ犯情ヲ斟酌シテ其輕重ヲ定ムルノ外ナシ

第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス
 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘置ス

本條ノ大意 死刑ノ執行方法及ビ死刑ノ宣告ヲ受ケタル者ノ處置ヲ規定セルマデニシテ別ニ説明ノ要ナシ拘置スルトハ普通ニ拘留シ置クノ意ナリ
 第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘置シ定役ニ服ス
 本條ノ大意 懲役ノ範圍及ビ方法ヲ規定セルニ過ギズ各條文ニ懲役ニ付キ短期ヲ示サ、ル時ハ常ニ本條ノ短期トセザルベカラズ懲役ハ定役ニ服スルモノナリ

第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス

禁錮ハ監獄ニ拘置ス

本條ノ大意 禁錮ノ範圍及ヒ方法ヲ規定セルモノニシテ之又前條ト同

ジク禁錮ノ短期ヲ示サ、ル法文ハ本條ノ短期ヲ以テ短期トス

禁錮ハ監獄ニ拘置スルモ定役ニ服セズ懲役ト禁錮トノ異ナル所即チ定役ノ有無ニアリ

第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

本條ノ大意 加重減輕ノ範圍ヲ規定セルモノニシテ大体ノ意ハ一讀明瞭ナルベシ加重又ハ減輕ニ付テハ第一編第十三章ヲ參照スベシ

第十五條 罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テ

ハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

本條ノ大意 本條ハ罰金ノ最寡額及ビ其減輕ノ場合ノ範圍ヲ定メタル

モノナリ、科料ト罰金トノ差ハ實ニ其額ニ對スル制限モノノ區別ナリトス

第十六條 拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘置ス

本條ノ大意 拘留ノ範圍ヲ定メタルモノニシテ未端ハ拘留ノ方法ノ規

定ナリ、説明ヲ加フルノ要ナカルベシ舊刑法ニ於テハ違警罪ヲモ規定シタルガ新刑法ハ之ヲ削除セリ、之レ違警罪ハ各地方ニ依リ大ニ規定ヲ異ニスル必要アルガ故府縣令警視廳令等ノ規定ニ讓リタルモノナルベシ、果シテ然ラバ是等ノ命令モ特ニ明文ヲ以テ除外セザル以上ハ拘留、科料等本條及ビ次條ニ從ツテ規定セザルベカラズ

第十七條 科料ハ十錢以上二十圓未滿トス

本條ノ大意 之レ科料ヲ科シ得ル範圍ナリ、罰金ト科料トノ別又之ニヨ

リ知ルヲ得ルモノナリ、然レドモ減輕ノ場合ハ以下ニ下ルコトアリ

第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス
 科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス
 科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス
 罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ
 罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付テハ裁判確定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコト得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス
 留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ
 留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス
本條ノ大意 本條ハ換刑處分及其言渡方法並ニ執行方法ヲ規定セル者ニシテ、財産刑ヲ自由刑ニ換刑シ得ルニ止リ、自由刑ヲ財産刑ニ換刑スルヲ許サズ言渡サレタル罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間内之ヲ勞役場ニ留置スルモノニシテ、如何ニ多額ノ罰金ナルモ一年ヲ超ユル期間留置スルヲ得ズ、舊刑法ハ一日一圓ノ割合ヲ以テセルガ故甚ダ長年月ニ渉ル留置アリシモ新刑法ハ是等ノ欠點ノ爲メ時日ヲ制限セリ
 科料ヲ完納スル能ハザル者ハ一日以上三十日以下ノ期間内之ヲ留置スルモノ

ニシテ、完納トハ全部ノ金額納付ノ意ナリ、然レドモ或額マデハ納付シ其殘額ヲ自由刑ニ換刑スルヲ得ベシト信ズ

科料ヲ(二)罪以上ノ場合ニ併科スル場合ニ於テモ其留置期間ハ科料總額何程ニ達スルモ六十日ヲ超ユルヲ許サ、ルモノトス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ス場合ニハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スル能ハサル場合ノ留置期間ヲ定メテ之ヲ同時ニ言渡サ、ルベカラズ、本項ニ付テハ大ニ疑問ノ餘地アリト雖モ余ハ言渡サレタル罰金又ハ科料ノ全額(一部分モ)ヲ納メズシテ換刑ヲ爲ス時ノ留置期間ヲ定メテ言渡スベキ規定ニシテ、幾分ヲ納付シ他ノ殘額ニ付キ換刑ヲ爲ス場合ハ本項ノ關スル所ニアラズ、從テ言渡スノ限リニアラズト信ズ

罰金ヲ言渡サレタル場合ニ、其刑ノ執行ニ付テハ、裁判確定シタル後三十日以内科料ニ付テハ裁判確定後十日以内ハ、本人ノ承諾ヲ得ルニアラザレバ留置ノ執行ヲ爲スヲ得ズ、故ニ是等ノ期間ハ納付期間ト見ルコトヲ得ベク、又承諾ハ民法ニ於ケル承諾トハ異ナリ留置ノ刑ヲ執行スルニ付テノ一條件ナリトス、期間ヲ

經過スルニ從テ此條件ヲ要セザルニ至ル

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ其罰金又ハ科料ノ幾分ヲ納ムル時ハ、罰金又ハ科料ノ金額ト留置日數トノ割合ヲ比較シ、其納付シタル金額ニ相當スル期間ヲ控除シ其殘金額ニ相當スル期間留置スルモノナリ、留置ヲ執行セラレテ後罰金又ハ科料ヲ納付シタル時ハ前ノ如ク比較シ其殘日數ニ相當スル金額ヲ納付セシメテ換刑ス、始メ幾分ノ罰金又ハ科料ヲ納付シテ留置ニ換刑シ後亦罰金又ハ科料ヲ納付シテ換刑スルモ妨グル所ニアラズ

金額ヲ納付スル場合ニハ其割合一日ニ滿タザル額ノ納付ヲ許サズ、又一日以上ノ割合ナルモ其端數ニシテ一日ニ滿タザル割合アル時ハ其端數ノ金額ノ納付ヲ許サ、ルモノトス

第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

- 一 犯罪行爲ヲ組成シタル物
- 二 犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物

三 犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物
沒收ハ其犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

本條ノ大意 本條ハ附加刑即チ沒收ヲ科シ得ル場合ノ規定ナリ、沒收ハ其沒收スベキ物が犯人以外ノ者ニ屬セサル時ニ限リ本條列舉ノ一ニ該當スル物ニ對シテ沒收シ得ルナリ
沒收ハ一ノ刑ナルガ故言渡サ、ルベカラズ

註解

第一 犯罪行為ヲ組成スル^{△△}トハ其物が犯罪構成ノ一要件トシテ存在スルモノニシテ其が存在セザル時ハ犯罪行為トナラザル物ヲ云フ學者ノ所謂罪体ヲナスモノハ之ニシテ其物ヲ所持スルニ因テ罪トナルモノアリ阿片ノ如シ、又犯罪行為ガ其物ナクシテハ成立シ得ザルモノアリ即チ其物ノ介在シテ犯罪ヲ成立セシムルモノ例ヘバ打網ヲ禁ジタル場所ニ打網ヲ爲スガ如キ發砲禁止ノ場所ニ發砲スルガ如キ之ナリ

今發砲ナル行為ヲ中心點トシテ犯罪行為ヲ觀察スルニ

- (一) 無免許者ノ爲スト
 - (二) 禁獵地ニ發砲スルト(免許者カ)
 - (三) 禁獵時ニ發砲スルト(免許者ガ)
 - (四) 禁獵鳥獸ニ發砲スルト(免許者ガ)
- 四場合アリ(四)ノ場合ニ銃器ハ犯罪ノ用ニ供シタル物ニシテ其鳥獸ハ犯罪ニ因テ獲タルモノナリ(二)ハ其銃器ハ犯罪組成物ヲ爲スモノナリ犯罪ノ用ニ供シタルモノニアラズ銃器ナケレバ犯罪成立セズ(一)ノ場合ハ犯罪ノ用ニ供シタル物ナリ無免許者ノ狩獵行為其モノガ犯罪ニシテ銃砲ナクトモ他ノ器具又ハ無手ニテ犯サレ得ルナリ
- 犯罪行為ノ組成物ハ其物が絶對的ニ犯罪行為ヲ組成スルモノニアラズシテ、禁ゼラレタル或人ニ因リテ此罪成立スルコトアリ、甲者ガ所持スルモ罪トナラズシテ乙者ガ所持スル爲メ罪トナルモノ多シ組成物ハ禁制品ニ限ルニアラズ

第二 犯罪行為ニ供シ又ハ供セントシタル物 犯罪行為ヲ爲スノ觀念アリテ 此行為ニ使用シ又ハ使用セント爲タル物ナルコトヲ要シ故意ナクシテ犯ス 過失犯ノ如キニハ之レナキモノナリ

殺人ノ用ニ供シタル兇器之ニ供セントシタル兇器ノ如キ總テ之ニ屬ス

第三 犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物 犯罪行為ヨリ生ズルトハ犯 罪ノ行為アリテ此行為ヨリ産出シタル物ヲ云フ故ニ此行為ヨリ得タルモノ

トハ大ニ異ナル例ハ變造貨幣變造文書等ノ如シ

犯罪ニ因リテ得タル物トハ犯罪ヲ犯シ之ニヨリテ直接ニ得タル物ニシテ犯 罪行為其モノニヨリ或出シタルモノトハ異ナル例ハ密獄ニヨリ得タル鳥 獸ノ如キ之ナリ

沒收ハ其沒收セラルベキ物が犯人ノ所有ニ屬スルコトヲ要シ其他ノ人ノ所有ニ 屬スル物ニハ沒收ヲ言渡スヲ得ズ之レ刑ハ常ニ被告ニノミ言渡スベク被告 ナキニ物ニ對シテ言渡スヲ得ザルガ故ナリ其物ノ存在ガ犯罪行為ヲ組成スル モノハ場合ニ因リテハ行政處分ヲ以テ沒收セラル、モノナリ故ニ此組成物ハ

其物が他人ニ屬スルモ沒收セラル、モノト云フベシ

第二十條 拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定ア ルニ非サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス

本條ノ大意

本條ハ拘留科料ニ對スル附加刑ニ關スル規定ナリ原則ト

シテハ拘留科料ニハ附加刑ヲ科セザルモ之ニハ二ノ例外アリ

一 特別ノ規定アル場合 特別ノ文ヲ以テ附加スルコトヲ規定セル時ハ沒收 刑ヲ科スルナリ

二 犯罪行為ヲ組成シタル物 此ハ其物ノ存在ガ既ニ犯罪トナルモノナレバ 犯罪ヲ存續セシメザラント欲セバ沒收スルノ必要アレバナリ

第二十一條 未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入 スルコトヲ得

本條ノ大意

未決拘留ハ其拘留日數ノ全部又ハ一部ヲ科刑ノ刑期ニ算

入シ得ルコトヲ定メタルモノナリ
 未決拘留トハ裁判確定セザル以前ニ被告人ニ對シ拘留狀ヲ發シ拘留シタル場
 合ヲ云フモノニシテ豫審判事又ハ公判裁判所之ヲ發スルナリ近時ノ實例ハ未
 決拘留ニ永キ月日ヲ送リ後漸ク公判ニ於テ無罪トナルガ如キ又ハ永キ日月ノ
 間未決拘留ニ遇ヒ後漸ク公判ニ於テ未決拘留日數ノ半バニモ達セザル刑期ノ
 間刑ヲ執行ヲ受クルガ如キアリ之レ大ニ其不幸トスル所ナレバ此規定ノ適當
 ナルハ言ヲ待タズ衆議院ノ委員會ニ於テハ「本刑ニ算入ス」ト修正シタルモ本會
 議ニ於テ貴族院ノ議定ノ如ク「ルコトヲ得」ト附加スルニ至レリ

・第三章 期間計算

本章ニハ刑期ノ計算ニ關スル方法ヲ定メタルモノニシテ、時效即チ期滿免除
 トハ異ナルモ時效ノ期間計算ハ本章ニ依ル

第二十二條 期間ヲ定ムル二月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆
 ニ從ヒテ之ヲ計算ス

本條ノ大意 期日ヲ算定スルニ月又ハ年ト稱スル時ハ曆ニ從フモノニ
 シテ日數ニ關係スルコトナシ例ヘバ一ケ年ト稱スル時ハ二月一日ヲ起算點ト
 セバ翌年一月三十一日一ケ年ノ終日トス、又一ケ月ト稱スル時ハ二月二十八日
 ハ最終日ナルモ其日數ハ二十八日ニ過ギズ、今三月一日ヨリスル時ハ三月三十
 一日ヲ最終日トスルガ故ニ三十一日間ナリ、同ジク一ケ月ニモ三十一日ナルコ
 トアリ三十日ナルコトアリ、又二十八日ナルコトアリ、本法總テノ計算ニ用フ、

第二十三條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス、拘禁セラレサル
 日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス

本條ノ大意 本條ハ刑期ノ起算點ヲ定メタルモノニシテ、其起算點ハ裁
 判ノ確定シタル其日ヨリスルモ例外トシテ未ダ拘禁セラレザル日數ハ刑期ト
 シテ算スルヲ得ズ、確定裁判ヲ受ケ未ダ拘禁セラレザル場合ハ關席判決ヲ受ケ
 タル場合ノ如キ之ナリ

(註解)

第一 確定裁判

ハ前ニ一言セシ所ナルガ本條ニハ有罪ノ裁判ガ確定スルコトヲ意味ス有罪ノ裁判ガ確定スルニハ次ノ如キ日數ヲ要ス

(一) 關席判決ニ對スル故障申立期間ハ經過 罰金以下ノ刑ヲ言渡シタル判

決ニ付テハ其判決ヲ送達スル其時ヨリ三日間禁錮以上ノ刑ヲ言渡シタル判決ニ付テハ被告人自ラ其送達ヲ受ケ又ハ判決執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル日ヨリ三日間トス

(二) 控訴期間ノ經過 判決言渡アリタル日ヨリ五日間關席判決ノ場合ニハ故障申立期間内控訴ヲ爲サ、ル時

(三) 上告期間ノ經過 判決言渡ノ日ヨリ三日間ナリ

(四) 上告審ノ判決言渡 之レ上級審ニ於テ最早攻撃方法ヲ採ルノ途ナケレバナリ

第二 刑期 刑罰ノ期間ナリ自由刑ニ付テノミ存在スルモノ罰金科料ノ刑ヲ完納スル能ハザルガ爲メ自由刑ニ更フル場合モ同様ナリ

第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計

ス時効期間ノ初日亦同シ

放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

本條ノ大意 刑ノ執行ヲ受クル日ハ其時間ハ午前ナルト午後ナルトヲ

問ハス一日ニ算ス時効ノ起算點ナル初日ハ同ジク一日トシテ算ス刑期間刑ノ執行ヲ受ケタル者ノ終了シ放免トナルハ刑期最終日ノ翌日即チ午前零時以後ナリトス

時効ニ付テハ後章ニ述ブベシ

第四章 刑ノ執行猶豫

本章ハ刑ノ執行猶豫ニ關スル規定ナリ舊刑法ニハ此規定ナカリシモ時勢ノ要求ハ終ニ其必要ヲ感ジ明治三十八年ニ單行法トシテ發布ヲ見ルニ至レリ元來刑ノ執行猶豫ハ千八百七十年ノモノニシテ千八百八十九年ニ至リ英佛等ニ採用セラレタルナリ

刑ノ執行猶豫ニ二主義アリ一ハ白佛主義ニシテ有罪判決其モノガ條件ニ係

リ、其條件完成スル時ハ判決其モノガナカリシト同様ノ效果ヲ生ズ

二ハ獨逸主義ニシテ單ニ刑ノ執行ノミヲ條件ニ係ラシメ、條件成就セバ其言
渡サレタル刑ノ執行ノミヲ除去セラル、モ他ノ點ニ於テハ何等ノ效果モ生
セズシテ刑ノ執行ヲ受ケタルト同一ノ結果ヲ生ズルモノナリ

本刑法ハ前述第一ノ主義ヲ採用セリ、二主義何レガ得失利害ノ多キヤハ議論
ノ存スル所ニシテ又刑ノ執行猶豫ヲ認ムルニ就テモ議論可否ニ分ル、然レド
モ實例ハ統計上第一主義ノ效果大ナルコトヲ示セリ

如何ナル場合ニ刑ノ執行猶豫ヲ言渡スベキヤハ裁判官ノ認定ニ因テ言渡ス
モノナルモ、犯人ノ性格品行犯罪ヲ犯セル原因等ヲ斟酌シテ決セザルベカラ
ズ

第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言

渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上
五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行

ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁

錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

本條ノ大意 本條ニ列記セル者二年以下ノ禁錮又ハ懲役ノ言渡ヲ受ケ
タルトキハ其犯罪ノ情狀ニ因リ裁判官ノ認定次第ニテ裁判確定ノ日ヨリ算シ
一年以上五年以下ノ期間内適宜ニ期間ヲ定メテ其間刑ノ執行ヲ猶豫スルコト
ヲ得ルモノナリ

此刑ノ執行猶豫ハ裁判ノ判決ト同時ニ言渡スモノニシテ其期間ヲ經過スレバ
刑罰ヲ受ケザリシト同ジキ效力ヲ生ズ

刑ノ執行猶豫ヲ言渡スニハ法文ニ示ス如キ條件ヲ要ス此條件ヲ要シタル上情
狀ニヨリ猶豫スルモノニシテ此條件備ハルモ必ず猶豫セザルベカラザルモノ
ニアラズ

第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言

渡ヲ取消ス可シ

一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

本條ノ大意 前條ハ刑ノ執行猶豫ヲ言渡シ得ベキ場合ヲ定メ、本條ニ於テハ一度言渡シタル刑ノ執行猶豫ヲ取消スベキ場合ヲ規定セルモノナリ、本條列舉ノ條件ニシテ具備スル時ハ必ズ之ヲ取消サ、ルベカラズ、而シテ裁判官ノ意思ニ任スルヲ得ザルナリ

取消サレタル時ハ直ニ刑ヲ執行セラル、モノニシテ其期間ハ前ニ言渡サレタル

ル判決ノ期間ナリ

其執行猶豫ノ言渡ヲ取消スベキ場合ノ條件ハ

(一) 刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル(即チ言渡ニヨリテ)期間内ニ更ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル時、ハ其犯罪ガ執行猶豫ノ言渡前ニ係ルト後ニ係ルトハ之ヲ問ハズ

(二) 前條第二號ニ記載セル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡ヲ受クル以前ニ他ノ犯罪ニ付禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトガ刑ノ執行猶豫ヲ言渡サレタル後其猶豫期間終了前ニ發覺シタルトキ

之ナリ

以上ニ場合ノ外刑ノ執行猶豫ヲ取消サル、コトナシ

第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サル、コトナクシテ

猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ

本條ノ大意 刑ノ執行猶豫ニ付キ條件ガ完成シタル場合ノ效力ノ規定

ナリ

前述ノ如ク本法ハ刑ノ執行猶豫ハ有罪判決其モノガ條件ニ係リ判決其モノ、
 效力ガ條件成就ト、モニ消滅スルモノニシテ、全ク刑ヲ科セラレザリシト同様
 トナル、從テ再ビ條件完成後罪ヲ犯スモ再犯ニアラズ
 條件トハ何ヲ云フヤ、言渡サレタル刑ノ執行猶豫ノ期間内ニ第二十六條ノ一號
 ヲリ三號マデガ生ゼザリシナレバト云フ條件ナリ故ニ條件ノ成否ハ猶豫ヲ言
 渡サレタル期間ト第二十六條トニ依リテ決定スベキモノナリ
 本條ノ刑ノ言渡ノ效力ハ其條件ノ成就ト、モニ當然失ハルベキモノニシテ敢
 テ何等ノ形式ヲ要セズ

第五章 假出獄

本章ノ假出獄ハ其源ヲ英國ニ發シ現今各文明國ノ認ムル所ニシテ、其目的ハ
 專ラ犯人ヲ可及的改悛セシムルニアリ、其方法ハ行政處分ヲ以テスルモノニ
 シテ、前章ノ刑ノ執行猶豫トハ其實質並ニ手續等皆異ナルコトヲ注意スベシ

第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルト

キハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ
 經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ
 得

本條ノ大意 假出獄ヲ許シ得ル範圍ヲ限定シタルモノニシテ、假出獄ノ

場合ハ常ニ此範圍ヲ遵守シテ處分セザルベカラズ

本條ハ懲役禁錮ニノミ適用セラルベキモノニシテ、一定ノ條件ノ下ニ行政官廳
 ノ處分ヲ以テ許スベキモノナリ

其條件ハ次ノ如シ

- (一) 懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルコト
- (二) 改悛ノ狀アルコト而シテ之ハ認定ニヨリテス
- (三) 有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタルコト
 之ナリ

第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取
 消スコトヲ得

一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ

四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ
假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セズ

本條ノ大意 本條ハ假出獄ノ處分ヲ取消シ得ル場合ヲ示セルモノニシテ其取消シタル時ノ效果ハ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セザルニアリ故ニ宣告セラレタル刑期ノ終末ニ出獄中ノ日數ヲ加ヘタル其最終日ノ翌日ヲ以テ放免セラル、ナリ

假出獄ノ處分ヲ取消スハ本條記載ノ第一號乃至第四號ノ一ニ該當セザルベカラズ
假出獄取締規則ハ別ニ制定セラレタルモノアリ

第三十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得
罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ

本條ノ大意 第二十八條ノ適用ハ懲役禁錮ノ二者ニ限レルモ自由刑ハ其他拘留又ハ罰金科料ノ刑ニシテ完納スル能ハザル場合ニ換刑留置セラレ、コトアリ本條ハ此場合ノ規定ニ外ナラズ
拘留又ハ罰金科料ヲ完納スルコト能ハザルガ爲留置セラレ、場合ノ假出獄處分ハ唯ダ情狀ニ因リテ假出獄ヲ許スモノニシテ他ニ何等ノ條件ヲ要セズ何時ニテモ許スヲ得ベシ

第六章 時 效

時効ハ時ノ經過ニ因ル公訴ノ消滅時効及刑ノ期滿免除ヲ以テ刑事法ニ於ケル時効トス

本章ニ於テハ刑ノ期滿免除ニ付テノミ規定シ公訴ニ關スルモノハ刑事訴訟法ニ因ラザルベカラズ

時効ヲ認ムルノ理由ニ付キテハ古今學說ヲ異ニス目今ノ學說ハ罪ヲ犯シタル時ヲ隔ツルコト永キニ從ヒ裁判ヲ爲ス上ニモ刑ヲ執行スル上ニモ利益ト害トヲ比較スレバ害多クシテ利益少ナシト云フニアリ

公訴ノ時効ト期滿免除トノ異ナル所ハ前者ハ確定判決ノ前ニ於テ刑ノ判決ヲ求ムル請求權ヲ消滅セシメ後者ハ刑ノ執行權ヲ消滅セシムルニアリ故ニ確定判決ノ後ニ起ル

期滿免除ハ刑ノ執行ヲ免除スルニ止リ犯罪ヲ消滅セズ故ニ再犯トシテ數フルモノタリ公訴ノ消滅時効ハ然ラズ

第三十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得

本條ノ大意 裁判ニ依リテ又ハ違警罪ノ如キハ行政處分ニヨリ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ガ言渡シ確定後一定ノ期間内執行ヲ受ケザル時ハ時効ニヨリテ其執行ヲ免除セラル、モノナリ如何ナル場合ニ斯ル事實ヲ生スルヤト云フニ關席判決ヲ受ケタルマ、逃走シテ縛ニ就カズ又ハ刑ノ執行中ニ逃亡シタルガ如キ場合ニアリ

第三十二條 時効ハ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス

- 一 死刑ハ三十年
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年
- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三十年未滿ハ五年

四 罰金ハ三年

五 拘留料料及ヒ没收ハ一年

本條ノ大意 本條ハ時効ノ期間ヲ定メタルモノニシテ、此期間内ニ中斷

ノ效果ヲ生ゼズシテ、此期間ヲ經過スレバ時効完成スルガ故最早刑ヲ執行スルヲ得ザルニ至ル、其起算點ハ刑ノ執行ヲ適レタル日ヨリ起算シ、關席判決ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリシ、一旦逮捕セラレ再ビ逃走スル時ハ逃走ノ日ヨリシ、三度逃走スル時ハ其最後ノ逃走ノ日ヨリ起算スルハ舊刑ノ採用セル所ナリ、新刑法ノ解釋トシテハ、其起算ハ刑ノ言渡確定シタル日ヨリスベキモノト信ズ、本條ノ解釋上至當ナルベシ、逃走ニ付テハ何等規定セザルモ、逃走ノ日ヨリスベキコト舊刑法ト同シカルベシ

第三十三條 時効ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ進行セス

本條ノ大意 本條ハ時効ノ停止ニ關スル規定ニシテ、法令ニヨリ刑ノ執行ヲ猶豫シタルカ又ハ法令ニ依リテ時効ノ進行ヲ停止シタル時ハ、其期間内ハ

進行セズ停止スルモノナリ、停止ハ中斷ト異ナルコトニ注意スベシ

第三十四條 時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス

罰金、料料及ヒ没收ノ時効ハ執行行為ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

本條ノ大意 本條ハ時効ノ中斷ニ關スル規定ナリ、自由刑ハ犯人逮捕ニ

ヨリテ中斷ス、財産刑ハ執行行為ヲ爲シタルニヨリ中斷ス、中斷ノ效果ハ今迄進行セル時効ヲ消滅セシメ新ニ時効ノ起算ヲ爲サザルベカラズ

停止ハ其停止期間ヲ算入セザルニ過ギザルガ故停止以前ニ進行セル時効ニハ何等ノ影響ヲ來サズ、時効ノ中斷ハ其中斷以前ノ進行セル時効期間ハ總テ消滅セシムルガ故ニ、更ニ新ナル起算點ヨリ起算ヲ始メザルベカラズ

註解

第一 逮捕 ハ各法種々ニ用ヒラル、モ、本條ニ於テハ逮捕狀ニヨリ刑ノ執行

ノ爲メ宣告ヲ受ケタル犯罪者ヲ監禁スル命令ノ逮捕ニシテ捕縛ノ一種ナリ
逮捕狀ハ檢事ノ發スルモノニシテ刑ノ宣告前豫審判事ノ請求ニヨリ檢事長
ノ發スル逮捕狀ト本條ノ逮捕狀トハ大ニ異ナル本條ノ逮捕ハ刑ヲ執行スル
ガ爲ニアリ

逮捕狀執行ノ機關ハ巡查及憲兵卒ナリ

第二 執行行為 ハ民事訴訟法ニ見ル所ノ文字ナリ本條トハ其實質ヲ異ニス
ルモ外形ハ同一ニシテ財産提出ノ命令ナリ刑ノ執行ノ一種ニシテ此執行ヲ
爲シタル時ヨリ時効ハ中斷ス

第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

本章ハ犯罪ノ不成立ニ關スル規定ニシテ刑法中ノ主要ナル章ナリ

犯罪トハ國家ガ刑罰ヲ科シタル有責不法ノ行為ナリ

犯罪トハ行為ノ一ニシテ此行為ニ國家ガ刑罰ヲ科スルガ故ニ刑法ニハ犯罪
行為ト之ニ科スル刑罰トノ二者ヲ規定セリ犯罪ノ成立ニハ一般ノ要素ト特

別ノ要素トアリ刑法ニハ犯罪ガ如何ナル場合ニ不成立ヲ來スヤヲ示セルモ
ノニシテ本章ハ其不成立ニ關スル一般ノ場合ノ規定ナリ故ニ犯罪行為ノ何
タルヤヲ説明シ其行為ガ如何ナル場合ニ不成立トナルカラ次ニ述ベン
如何ナル行為ニ對シ國家ガ刑罰ヲ科スルヤハ法令ニヨリテ定マルモノニシ
テ法令以外ニ求ムルヲ得ズ

有責不法ノ行為トハ其行為ガ有責行為ニシテ且ツ不法行為ナルコトヲ意味
ス行為ハ意思ノ發動ト之ニ伴フ物界ノ狀態トノ二者ヲ以テ成ルモ行為ノ成
立スルニハ行為者即チ主体及ビ客體(被害物體)ノ存在スルヲ要ス

行為ノ内容ハ意思發動ト之ニ伴フ物界ノ狀態ナルモ其實質ヨリ區別スル時
ハ積極行為ト消極行為トニ區別スルヲ得ベシ消極行為ハ一ニ之ヲ不作爲ト
モ云フ

積極行為ニヨル犯罪トハ國家ガ禁制シタル行為ヲ其禁令ニ違反シテ犯スヲ
云フモノ消極行為ニヨル犯罪トハ國家ガ命令シタル行為ヲ爲サザルニ依リ
犯スヲ云フ前者ヲ行犯ト云ヒ後者ヲ不行犯ト云フコトアリ

不法行為ハ國家ノ禁令命令ニ違反スル行為ヲ云フモノニシテ民法等ニ於ケルト異ナルコトナシ其制裁ガ刑罰ナルヤ否ヤニヨリ刑法上ノ不法行為ト否トヲ區別スルノミ

有責行為ハ本人ノ責ニ歸スベキ行為ノ義ニシテ身体ノ働作ト其本人トヲ結スル精神上ノ關係ヲ云フモノハ責任ナリ責任アル行為ハ即チ有責行為ナリ

犯罪ハ前述ノ如ク國家ガ刑罰ヲ科シタル(法令ニ依リテ)然モ責任アル行為ニシテ且ツ不法ノ行為ナラザルベカラズ之ヲ簡單ニ云ヘバ國家ガ刑罰ヲ科シタル不法行為ヲ云フト稱スルヲ得ベシ

第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行為ハ之ヲ罰セズ

本條ノ大意 本條ハ一定ノ行為ニ對シテ犯罪ノ成立セザルコトヲ示シタルモノニシテ其一定ノ行為トハ法令ニヨリテ命ゼラレタル職務ヲ執行シ又ハ自己ノ正當ナル業務ヲ執行スル爲メノ行為ヲ云フナリ

法令ニ因ル業務ノ執行トハ例ヘバ本屬長官ノ命令ニ因リ又自己ノ職務權限内ノ職務ノ執行ニヨリテ爲シタル行為又ハ民法ニ認メタル懲戒親權者ガ其子ニ對スル若クハ監督行為刑事訴訟法ニ規定セル逮捕權ノ行使ノ如キノ云フ

正當ノ業務ニ因リトハ其業務上準據スベキ規則アリ此規則ハ慣習ニヨリ生ズルコト多ク明文ヲ以テ定メザルモ可ナルモノトス
本條ノ例トシテハ外科醫ガ患者ノ手足ヲ切斷シ角方ガ暴行トシテ毆打罪トナラサル産婆ガ或場合ニ墮胎罪ヲ構成セザルガ如キ之ナリ或ハ外科醫ノ手術ヲ承諾ニ基クテ故無罪ナリトスルアリ之不可ナリ幼者ニ手術ヲ施スガ如キアレバナリ

第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行為ハ之ヲ罰セズ
防衛ノ程度ヲ超エタル行為ハ情狀ニリ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

本條ノ大意 本條ハ正當防衛ノ規定ナリ正當防衛トハ急迫不正ノ攻撃

ニ對シテ法益ヲ防衛スル爲メ己ムコトヲ得ス者ヲ攻撃者ニ加フルヲ云フ
正當防衛ニハ次ノ要件アルヲ要ス

(イ) 攻撃ハ人類ノ行爲ナルコト

攻撃(侵害)ハ不正ナルコト

攻撃ハ現在ナルコト(即チ急迫)

(ロ) 正當防衛ノ實質ハ

攻撃(侵害)者ニ對シテ行フコト

自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メナルコト

己ムコトヲ得ザルニ出ツルコト、己ムコトヲ得ザルトハ逃避ノ餘地ナキヲ

云フニアラズ防衛ノ目的ヲ達スル爲メ止ムコトヲ得ザルヲ云フ

之ナリ

本條第二項ハ防衛ノ程度ヲ超エタル場合ニ適用アル規定ナリ

正當防衛ノ例ハ甚ダ多シ強盜ノ侵入暴行ヲ爲ス場合ニ自己ガ其強盜ニ反撃ヲ

加ヘテ死傷ニ至ラシムガ如キ又自己ノ兄妹ニ暴行ヲ加フルトキ傍ヨリ之ヲ反

撃スルガ如キ之ナリ、又既ニ財物ヲ得テ逃ゲ出サントスル場合ニ之ヲ取返ス迄
ハ防衛ナルモ夫以上ノ行爲ハ程度ヲ超越シタルモノナリ
終ニ一言スベキハ防衛者ガ不正ノ所爲ヲ爲シ自ラ攻撃ヲ招ギタル時ハ正當防
衛ハ之ニ對シテ成立セズ

第三十七條

自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對ス

ル現在ノ危難ヲ避クル爲メ己ムコトヲ得サルニ出テタル行

爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超

エサル場合ニ限り之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタル行爲ハ情

狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ除免スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セズ

本條ノ大意 本條ハ所謂緊急狀態ノ規定ナリ一ニ之ヲ急迫危難トモ云

フ

急迫危難トハ一ノ法律利益ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ他ノ法律利益ヲ

害スルノ必要ニ迫ラレタル状態ヲ云フ之ヲ換言スレバ一ノ法律利益ヲ保護スル爲メ他ヲ犠牲ニ供スル必要アル状態ヲ云フ
緊急状態ニ於テ吾人ガ他ノ法律利益ヲ害スルヲ得ル行爲ヲ緊急状態行爲又ハ急迫危難行爲ト云フ
緊急状態ハ其原因人ノ行爲ニ基クコトアリ其他ノ不可抗力(天災地變)ニ基クコトアリ人ノ行爲中適法ノ行爲ニ基クコトアリ違法行爲ニ基クコトアリ違法行爲ニ基キ其行爲者ノ法益ヲ侵スハ正當防衛トナル其他ノ本條ノ規定ニヨルベキモノナリ

急迫危難行爲ノ條件ハ(即チ急迫危難防衛行爲)

- (一) 防衛ノ責ニ歸スベカラザル原因ニ基ク危難ナルコト
- (二) 現在ノ危難ナルコト
- (三) 已ムヲ得ザルニ出デタルコト
- (四) 自己又ハ他人ノ生命身體自由若クハ財産ニ關スル危害ヲ避クルヲ目的トスルコト

(五) 急迫危難行爲ニ因リテ加フベキ害ノ種類ハ制限ナシ如何ナル法益ヲ毀損スルモ可ナリ

(六) 危難行爲ヨリ生ジタル害ノ程度其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エザルヲ要ス

(七) 危難行爲者ハ業務上特別ノ義務アル者ニアラサルコト

之ナリ以上ノ要件ヲ備フルトキ罰セラレザルナリ緊急状態ト緊急状態行爲トハ異ナルモノナリ

害ノ程度ガ避ケントスル害ノ程度ニ超過シタル時ハ状態ニ因リ或ハ其刑ヲ減輕シ又ハ免除セララル、コトアリ

例ヲ云ヘバ甲乙二人海上ニ於テ僅ニ一人ヲ救フニ足ルベキ板ヲ争フ弱者ナル乙ノ所持セルヲ強者ナル甲ガ奪ヒ自己ノ生命ヲ全フシ乙ハ終ニ溺死セリ此場合ニ甲ハ緊急状態行爲ヲ爲シタルモノ即チ無罪ナリ

第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ輕減スルコトヲ得

本條ノ大意

本條ハ故意ニ關スル規定ナリ故意ナキ犯罪ハ特別ノ場合

ノ外犯罪トナラズ故意ナクシテ犯罪トナルハ明文ヲ要ス過失犯ノ如キ之ナリ故意ハ觀念決意ナリ犯罪事實ノ觀念アリテ犯罪行為ヲ決意スルヲ云フ

罪ヲ犯スノ意ナキ行為トハ犯罪行為ヲ決意セザルヲ云フモノナリ罪ヲ犯スニハ犯罪事實ヲ觀念シ決意シ後行動ヲ探ルモノナリ

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラザルトハ刑罰ハ一定ノ場合ニ加重セラル第二百條ノ尊屬ヲ殺シタル時ハ殺人ナルモ第九十九條ヲ適用セザルガ如キ此重キ刑ヲ科セラル人ヲ殺シタル場合ニ普通人ヲ殺スノ意思ヲ決シ行ヒタルモノナル時ハ重キ刑ヲ科スルヲ得ズ然レドモ其相手ガ尊屬ナルヲ知レル以上ハ

刑罰ノ加重セララルモノナルヲ知ラザルモ故意ニ欠クル所ナシ唯ダ其殺害者ガ尊屬親タルコトヲ認メタル否ヤニ依リテ決スルノミ

犯罪事實トハ犯罪構成ノ物的要件即チ罪トナル事實及ヒ刑罰加重條件ヲ云フ構成ノ物的要件トハ例ヘバ人タリ物タル事實ニシテ之ヲ觀念セザルベカラズ觀念認識ハ知ルト云フコトニシテ犯罪事實ヲ知ルトハ殺人罪ノ場合ニ彼ハ人

類ナリト知ルナリ鹿ナリト知ルハ錯誤アルモノト云フ決意ハ身体ノ動作ヲ指揮スル精神作用ナリ例ヘバ吾人ガ或行為ヲ爲スニ幾多ノ爲スベキヤ止ムベキヤノ精神作用ヲ生シ遂ニ爲スベシトノ精神作用ヲ生シ他ヲ排斥シタル時ニ決意アリ

故意ハ犯罪事實ヲ觀念シ決意スルヲ云フガ故彼ハ人ナリ獸ニアラズト知り彼ヲ殺スト決心セル時ハ故意アルモノト云フ

法律ヲ知ラザルヲ以テ罪ヲ犯ストハ前ニ述べタル如ク故意ハ法律ニハ關係ナシ殺人ノ場合ニ人タルヲ知り之ヲ殺スノ決意ヲ爲セバ故意アルモノニシテ法律ガ之ヲ罰スルヤ罰セザルヤ又ハ三年以上ニ罰スルヤ無期懲役ニ罰スルヤ

ハ之ヲ知ラザルモ可ナリ唯人ナリ尊屬親ナリト知ラバ之レニテ可ナルノ意ナリ

第三十九條 心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

本條ノ大意

犯罪ハ行爲ナリ意思ヲ要ス心神喪失者ハ法律上ノ意思ヲ有セズ故ニ行爲ハ成立セズ本條第一項ノ規定ハ特ニ明文ヲ要セザルナリ

心神喪失トハ全ク智能ヲ有セザルニ至リタル精神上ノ状態ナリ全クノ狂者ノ如キ之ナリ

心神耗弱トハ全ク智能ヲ有セザルニハアラザルモ利害得失ヲ辨別スル智能ノ不完全ナル精神上ノ状態ヲ指ス白痴者ノ如キ之ナリ

其何レニ屬スルヤハ裁判官ノ認定ニ依ルモノナルモ醫師ノ鑑定等専門家ノ鑑定ニ因ラザルベカラス

第四十條 啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

本條ノ大意

本條ハ別ニ説明ヲ要セザルモ瘖啞トハ語能聽能ヲ欠ク者

ニシテ單ニ語能ノミヲ欠ク者又ハ聽能ノミヲ欠ク者ハ本條ニ該當セズ

第四十一條 十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

(之レ意思ノ辨別力ニ乏シキガ故ナリ懲治場ニ入ル、ハ罰罰ニラズ)

第四十二條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ

其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

本條ノ大意

本條ハ自首減等ノ規定ナリ自首トハ罪ヲ犯シ事發覺前ニ自ラ進テ當該官吏ニ罪狀ヲ申告スルヲ云フ

其條件ハ

- (一) 罪ヲ犯シ未ダ發覺セザル前ナルコト
- (二) 相當ノ官署官吏ニ發覺セザル前ニ是等ノ官署官吏ニ申告シタルコト
- (三) 犯人自ラ進ンデ申告シタルコト

之ナリ相當ノ官署官吏トハ搜索權ヲ有スル官署官吏ヲ云フモノニシテ檢事局
警察署警視廳檢事司法警察官等之ナリ
親告罪ニ付テハ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル時亦之ト同等ナリ首服ハ申告
ナリ唯其相手方ヲ異ニスルガ故文字異ナルノミ

第八章 未遂罪

本章ハ未遂犯ニ關スル規定ナリ犯罪ノ未遂既遂ハ學理上ハ明カナルモ實際
ニ運用スル場合ニハ大ナル困難ヲ感スルコト多シ
未遂トハ犯罪事實ノ觀念ヲ以テ之ヲ完成スルノ虞アル行為ヲ爲スヲ云フ
犯罪ノ既遂未遂ヲ區別スル標準ハ犯人ノ目的ノ既遂未遂ヲ以テ標準トスル
ヲ得ズシテ法文ガ或一定ノ罪ニ關シテ定メタル行為ノ着手ノ状態ニ達シタ
ル行為及ビ他ノ條件ヲ總テ充シタルト否トニヨリ既遂未遂ノ區別ヲ爲スモ
ノナリ偶々法律ガ犯人ノ目的ヲ達シタル時ヲ既遂ト爲スモ之レ法律ガ此時
ヲ既遂ノ條件トナスガ故ノミ犯罪事實ノ完成ハ犯人ノ目的如何ニ係ラズ既

遂ナリ

未遂犯ハ故意ナキ犯罪ニハナシ又之ヲ罰スルハ明文ニ因ル不作爲犯ニ未遂
犯アリ

第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減
輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ因テ止メタルトキハ其
刑ヲ減輕又ハ免除ス

本條ノ大意 本條ハ未遂犯ノ規定ニシテ但書以下ハ中止犯ノ規定ナリ
未遂犯ノ成立要件ハ

- (一) 本人ニ犯罪事實ノ觀念アルコト
 - (二) 本人ノ行動ガ着手ニ至ルコト
 - (三) 實行ニ着手シ又ハ實行ヲ終結スルモ以外ノ障礙アリテ遂クルニ至ラザル
コト
- 之ナリ(三)着手未遂實行未遂

犯人が任意ニ既遂ニ至ラシメザルハ中止ナリ中止犯ハ未遂犯ノ一ナリ
中止犯ハ着手未遂ニモ實行未遂ニモ存在ス毒藥ヲ服用セシメテ後直ニ解毒劑
ヲ與ヘタルガ爲メ何等ノ結果ヲモ生セザリシ如キハ實行未遂ニ於ケル中止犯
ナリ

本條ニ犯罪ノ實行ニ着手シテ之ヲ遂ゲサルノ文字アリ遂ゲサル原因如何ト見
ルニ犯人自身ノ意思ニ基キテ遂ゲザル場合アリ犯人ノ意思ニ關係ナク意外ノ
障碍ノ爲ニ遂ゲザルコトアリ前者ハ即チ中止犯ナルモ後者ハ普通ノ未遂犯又
ハ不能犯ナルモノトス

不能犯トハ行為ノ性質上本人ノ豫期シタル結果ヲ惹起スコト能ハサル場合ノ
犯罪行為ニシテ例ヘバ妊婦ト信シテ墮胎劑ヲ服セシメタルニ其婦妊婦ニアラ
ザリシガ如キ又毒殺ノ意思ヲ以テ毒藥ヲ服用セシメタルニ其藥物毒藥ニアラ
ズシテ何等ノ結果ヲ生セザリシガ如キナリ

不能ノ性質ニ付テハ古來ヨリ數多ノ議論アリト雖モ一定ノ行為ハ一定ノ結果
ヲ惹起スト否ト(即チ可能ト不能ト)二者ノ一ナリ未遂ハ其實不能ノ場合ナリ犯

意ノ在ル所ヲ確認スルヲ知ルガ故法律ハ總テ之ヲ罰スベシト云フ主觀說ヲ可
ナルモノト信ズ

第四十四條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

本條ノ大意

本條ハ未遂罪ヲ罰スルハ各條明文ヲ待タザルベカラズ明

文ナキ未遂ハ處罰セラレザルナリ一ノ犯罪ニ付キ豫備ヲ一ノ獨立罪トシテ處
罰スルコトアリ未遂罪タルベキヲ獨立罪トシテ罰スルコトアリ斯ル場合ノ犯
罪ハ未遂アリ得ベカラズ又過失犯ニモ未遂犯ナク不作爲犯消極行為ニハ未遂
犯アリ得ル場合アルモノトス

學者ノ說ニ依レバ不作爲犯ニハ缺効未遂ノミアリト稱ス例ヘバ鐵道ノ監視者
ガ其鐵道ニ大石横ハルヲ知リ故意ヲ以テ之ヲ除去セズ瀛車ヲ顛覆セシメント
圖リタルニ瀛車ハ漸ク顛覆セズシテ通過シタル場合ノ如キハ何等ノ效果ヲ顯
ハサハリシモ著手行為ト見ルヲ得ベク之ヲ未遂トシ罰スルナリ之レ不作爲犯
ニ未遂犯アル例ニシテ唯缺効未遂ノミアリ得即チ顛覆スルカセズシテ通過ス
ルカノニアリテ顛覆セザル場合ハ缺効未遂ナリト

第九章 併合罪

舊刑法ハ數罪俱發ナル名稱ヲ以テセルモ刑法ハ其主義ヲ改メ名稱ヲ變更シ
タリ舊刑法ハ數罪俱ノ場合ニ吸收主義ヲ採リタルモ刑法ハ原則トシテ併科
シ一定ノ場合ニ吸收主義ヲ採ル

第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ
付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯
シタル罪トヲ併合罪トス

本條ノ大意 本條ハ併合罪ノ何タルヤヲ規定セルモノニシテ確定裁判
ヲ經ザル數罪ヲ併合罪トシ若シ或犯罪ニ付キ確定裁判アリタル場合ニハ其前
ニ犯シタル犯罪ト其確定裁判ノ罪トヲ併合罪トナスモノニシテ其以後ノ犯罪
ヲ含マズ

第四十六條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他
ノ刑ヲ科セス但收以ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑
科セス但罰金科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

本條ノ大意 本條ハ數罪ニ對スル併科主義ノ例外ニシテ刑ヲ併セ科セ
ザル場合ノ規定ナリ
數罪ノ一ニ付キ死刑ニ處スベキトキハ沒收ノ他外ノ犯罪ニ付キ刑ヲ科セズ
無期懲役無期禁錮ニ處スベキ場合ニハ罰金科料沒收ノ外他ノ犯罪ニ付キ刑ヲ
科セザルモノナリ

第四十七條 併合罪中以個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ
其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタ
ル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ルコトヲ得ス

本條ノ大意 本條ハ併合罪中二以上ノ有期刑ノ場合ノ規定ナリ
有期ノ懲役又ハ有期ノ禁錮ニ處スベキ二以上ノ罪アル時ハ其最モ重キ方ノ刑

ノ長期ニ此長期ノ半數ヲ加ヘタルモノヲ其刑ノ長期トスルモ其各罪ニ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタル時其合算期間ガ前ニ計算シタル期間ヨリ短キ時ハ前ノ計算シタル刑期ニ因ルヲ得ズ

例ヲ以テ之ヲ云ヘバ一人アリ竊盜ヲ犯シ(第二百三十六條)未ダ裁判確定セザル以前ニ強盜ノ豫備ヲ爲シ(第二百三十八條)タリトスレバ之レ併合罪ナリ此場合ニ竊盜罪ノ長期ハ十年ナリ十年ニ其半ヲ加フル時ハ十五年トナル然ルニ此二罪ノ長期ヲ合算スル時ハ懲役十二年ナリ本例ノ場合ニ於テ刑ヲ適用スルニハ前ノ十五年ヲ最長期トセズシテ十二年ヲ最長期トシ其範圍内ニ於テ刑ヲ適用ス

第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一

項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

本條ノ大意 本條ハ罰金ヲ併科スル規定ナリ死刑ノ場合ノ外ハ罰金ハ併科ス又罰金ト罰金トノ刑ニ付キテハ其最多額ヲ各合算シタル以下ニ於テ適宜ノ認定ヲ以テ科セラル、モノトス

第四十九條 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收

アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

本條ノ大意 本條ハ沒收ノ併科規定ナリ即チ沒收ハ例外ナク併科セラ

第五十條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル

罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

本條ノ大意 裁判ヲ經タル罪アリテ後未ダ裁判ヲ經サル罪アルコト發覺シタル場合ニハ其罪ニ付キ裁判セラレベキコト明カナリ

第五十一條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其

刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可トキハ罰金科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

本條ノ大意 本條ハ併合罪ニ付キニ以上ノ裁判アリタル場合ノ執行方法ナリ未ダ裁判前ナルトキ如何ニ裁判シ刑ヲ適用スベキヤハ前ニ述べタル所ナリ
本條ニ因レバ原則トシテ併科シ執行スルモノナリ
此例外ハ

死刑ノ場合ハ沒收ノ外他ノ刑ハ執行セズ
無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行スルトキハ罰金科料沒收ノ外他ノ刑ハ執行セズ
有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ併セテ之ヲ科ス然レドモ其最モ重キ罪ニ付キ定

メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得サルモノトス(第四十七條ヲモ参照スベシ)

第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

本條ノ大意 併合罪ニ付キ此併合罪ノ規定ニ從テ處斷セラレタル後其中ノ或罪ニ付キ大赦アリタル場合ハ如何ニスベキヤト云フニ大赦ヲ受ケザル罪ニ付テ刑ヲ定ムベキモノナリ即テ大赦ヲ受ケタル罪ヲ除キ他ニ二罪以上アリテ併合罪トナシ得レバ併合罪トシ其規定ヲ適用スベク然ラザレバ其罪ハ一罪トシテ刑ヲ定ムベキナリ
大赦ハ大權命令ヲ以テ犯罪ニ對スル法律上ノ效果ヲ全滅スルモノニシテ確定判決前ナル時ハ公訴權ハ消滅シ確定判決ヲ經タル犯罪ニハ判決ノ效力ヲ全滅セシム管テ有罪判決ヲ經ザリシト同一ノ效力ヲ生ス

第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十

六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス

本條ノ大意 本條ハ併合罪ニ付キ拘留科料ハ如何ニスベキヤノ規定ナ

リ

拘留科料ハ第四十六條ノ場合ノ外之ヲ併科スルモノナリ

第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ

手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ル、トキハ其

最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

本條ノ大意 一個ノ犯罪行爲ニシテ數多ノ罪名ニ觸ル、場合ハ甚ダ少

ナカラズ又犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲モ他ノ罪名ニ觸ル、コト多シ此場

合ハ沒收ハ併科スルモ其他ノ犯罪ハ其中ノ最モ重キ刑ヲ適用スベキモノナリ

(所謂想像上ノ數罪俱發)

例ヲ云ヘバ竊盜ノ爲メ家屋内ニ入り財物ヲ竊取シタル時ハ家宅侵入ト竊取ト

ノ二者ガ罪名ニ觸ル、ナリ又人ヲ殺スノ目的ヲ以テ電車ヲ顛覆セシメ(第百二

十六條)以テ其欲スル人ヲ殺シタル(第二百條)時ハ又二者ノ罪名ニ觸ル、ナリ

第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ル

ルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

本條ノ大意 本條ハ連續犯ノ規定ナリ連續犯ハ同種類ニ屬スル多數行

爲ヨリ成ルモノニシテ其性質ガ同一ナルガ故ナリ故ニ其總テガ同一ノ法益ニ

對スルコト及ヒ同種ノ方法ヲ以テ實行セララル、コトヲ要ス

例ヘバ倉庫内ニ米アリ戸締リナキガ故一日二回ニ二俵宛三日間竊取セリトス

レバ之レ連續犯ナリ其一俵ヲ竊取セシ場合ニモ犯罪ハ成立シ居ルモノナリ三

回目ニテモ同ジク竊盜罪ナリ是等ヲ同方法同種ニテ續カシメバ百俵ニ至ルモ

猶一ノ連續犯トシテ一罪ナリ然レドモ之ヲ中途鎖鑰ヲ施シタリトセバ其以後

ノ行爲ハ最早連續犯ニアラズシテ前ノ犯罪トハ全ノ別種ノ一罪トナル

第十章 累 犯

本章ハ舊刑法再犯ニ該當スベキヲ修正シ三犯以上ノ累犯ヲモ加ヘタルガ故
累犯トシタルモノナリ

第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ
免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス
可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執
行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ
其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間
内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ
併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ
罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適

用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

本條ノ大意 本條ハ再犯ノ規定ナリ再犯ハ總テノ犯罪ニ普通ノ觀念ニ
テハ存在シ得ルガ如キモ刑法ノ再犯ハ大ニ制限セラレ再犯ハ必ず加重セラル
、モノナリ

刑法ニ云フ再犯ハ懲役又ハ之ト同質ノ死刑ニ處セラレ其免除アリタル者等ニ
ノミ存在シ禁錮罰金等ニナシ

又再犯例ヲ適用スルニ其期間ノ起算點ヲ裁判確定ノ時ヨリスル立法例アルモ
本法ハ之ヲ採ラザリキ

再犯ノ條件ハ
第一項ハ

(イ) 前ニ懲役ニ處セラレタル者

(ロ) 其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ起算シテ五年内ニ

(ハ) 更ニ罪ヲ犯シ

(ニ) 有期懲役ニ處スベキトキ

之ナリ無期懲役ニ處スベキ時ハ加重スルノ必要ナキナリ
第二項ハ

(イ) 懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者

(ロ) 其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行
ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ起算シ五年内ニ

(ハ) 更ニ罪ヲ犯シ

(ニ) 有期懲役ニ處スベキトキ

之ナリ

第三項ハ

(イ) 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者

(ロ) 其併合罪中ニ懲役ニ處スベキ罪ノ合マレタルトキ併合罪ハ最モ重キ刑

ノ長期ノ一倍半ヲ以テ長期トナス本例ニ於テ其併合罪中ノ懲役ニ該當ス
ル刑ガ最モ重キ刑ニアラズ從テ禁錮ノ刑ニヨリ處斷セラレタリトスルモ
其併合シタル罪ノ中ニ懲役ニ該當スル罪ノ合マレタル以上ハ再犯トナリ

得ルナリ

(ハ) 其併合罪ニ付テノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ免除アリタル日ヨリ起算シ五年

内

(ニ) 更ニ罪ヲ犯シ

(ホ) 有期懲役ニ處スベキトキ

之ナリ

以上ノ場合ニハ各再犯トシテ處斷セラレ

第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二

倍以下トス

本條ノ大意 本條ハ再犯ノ刑ハ如何ニ定ムベキカヲ明カニセルモノナ

リ 懲役又ハ之ニ準ズベキ罪ヲ前ニ犯シ後一定ノ期間内ニ懲役ニ該當スベキ罪ヲ

犯シタル場合ニノミ再犯ヲ認ムルコト前ニ述べタル處ナリ

其後ノ懲役即チ再犯ノ懲役ノ長期ハ此犯罪ガ再犯タラザル場合ニ法定セル懲

役ノ長所ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ザルモノナリ故ニ其範圍内ニ於テ定メザルベカラズ

第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム
懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

本條ノ大意 本條ハ確定裁判後ニ於ケル再犯者ノ處分ノ規定ナリ
裁判確定シタル後懲役ノ執行ヲ終ル以前又ハ其執行ノ免除ヲ受クル以前ニ前述ノ再犯ニ該當スベキ者ナルコトヲ發見シタルトキハ前條ニ規定セル方法ニ從ヒ加重スベキ刑ヲ定メ言渡スベキモノナリ此期間ヲ經過シタル後再犯者タルコト發覺スルモ刑ヲ科スルヲ得ズ

第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ
本條ノ大意 本條ハ三犯以上ニ再犯ノ例ヲ適用スベキ規定ナリ

刑法ハ舊刑法ト異ナリ再犯ノ場合ニ充分ノ加重ヲ爲シ得ル範圍ヲ設ケタルヲ以テ三犯以上モ再犯ノ例ニ依リ其目的ヲ達シ得ルガ故再犯ノ例ニヨルベキヲ定メタルナリ

第十一章 共 犯

共犯ノ意義從犯正犯等皆條文ヲ以テ明カニセリ刑法ハ舊刑法ノ不備ヲ補ヒタルニ止リ變更ヲ加ヘタル所少ナシ

共犯ハ二人以上共同シテ一罪成立スル犯罪ナルガ正犯ハ其中ノ實行ヲ爲ス者ノミヲ云フ

共犯ノ意思ハ如何ト云フニ共同犯罪ノ觀念決意ナリ現在又ハ將來ニ於ケル犯罪事實ヲ認識シ及ビ共同シテ犯罪行爲ヲ爲スノ決意アル時ハ共犯ノ故意アリト云フヲ得ベシ共犯ノ故意ハ一同之ヲ有セザルベカラザルヤト云フニ或ハ共同ノ故意アルヲ必要トスト云ヒ或ハ共同ノ故意アル一方ノミニ共犯關係生シ得ト爲シ或ハ從犯ノミニハ共同意思ヲ必要トセズ其他ノ共犯ニハ

共同ノ故意ヲ必要トスト云ヘリ第三説ヲ可トスベシ
過失犯ニ共犯ノ責任ヲ生ズルヤ議論三説ニ別レタリト雖モ多數ノ學說判例
ハ此責任ナキモノトセリ

第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯ト

ス

本條ノ大意 本條ハ共同正犯ノ意義ヲ定メ共同正犯ノ何タルヤヲ示セ

リ

數人が共同シテ一罪ヲ成立セシムルハ數人共犯ナリ共犯ハ其採ル所ノ行爲ヨ
リ分ツテ正犯教唆犯從犯トナス

一人ガ一罪ヲ成立セシムルハ單獨犯ナリ單獨犯ハ常ニ單獨正犯ナリ

正犯ハ常ニ著手行爲ヲ爲スニ因リ罪責ヲ負フモノナリ

二人以上ガ著手行爲ヲ共同シテ爲スニ因リ一罪ヲ成立セシムルハ共同正犯ナ
リ

共同正犯ニ二種アリ任意ノ共同正犯必然ノ共同正犯之ナリ前者ハ單獨ニテ犯

スヲ得ベキ犯罪ヲ共同シテ犯ス場合ニシテ後者ハ二人以上ニテ犯スニアラザ
レバ犯スヲ得ザル犯罪ナリ重婚罪姦通罪等ノ如シ

本條ハ二者ヲ包含スルヤ否ヤ疑問ナルモ之ヲ包含セシメサルモノト解スベキカ

第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ

準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

本條ノ大意 本條ハ教唆犯ノ規定ナリ他人ヲシテ罪ヲ犯ス決意ヲ生ゼ
シムル總テノ行爲ヲ教唆ト云フ

教唆ハ常ニ犯人ガ決意スル以前ニ存在シ得ルモノニシテ決意シタル以後ニナ
シ犯人ニ其決意ヲ爲サシムル行爲ヲ教唆ト云フ

又他人ニ教唆ヲ爲スノ決意ヲ爲サシムルモ教唆行爲ト云フヲ得ベシ

教唆犯ハ正犯ニ準ジテ處分セラレベキモノナリ

教唆犯ハ被教唆者ガ其犯罪ヲ實行シタル場合ニ成立ス教唆ノ實行ノミニテ罪
トナルハ本條ノ外ニアリ

第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス
從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

本條ノ大意 本條ハ從犯ノ規定ナリ
他人ノ犯罪ヲ幫助シテ容易ナラシムル行為ヲ從犯ト云フ
故ニ從犯ハ犯人ガ犯罪ノ決意ヲ爲シタル以後ニ存ス

他人ヲ教唆シテ從犯ヲ犯スノ決意ヲ與ヘシメタル者即チ從犯ノ教唆者ハ從犯
ニ準ジテ處斷セラル

從犯ノ例ハ甲ガ罪ヲ犯スノ決心アルコトヲ知り之ニ其犯罪ヲ容易ナラシメ得
ベキ器具類ヲ供給シタル時其者ヲ從犯トスルガ如キ之ナリ但シ甲ガ著手シタ
ルコトヲ要スルナリ

第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

本條ノ大意 從犯ニ如何ナル刑ヲ適用スベキカヲ定メタルモノナリ
從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ヨリ減輕スベキモノナリ其減輕ハ第十三章ニ從フ

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從

犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

本條ノ大意 拘留又ハ科料ニ處スベキ犯罪者ノ教唆ヲ爲シタル者又ハ
幫助ヲ爲シタル從犯者ハ特ニ明文ヲ以テ規定セル場合ノ外之ヲ罰セザルナリ

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行為ニ加工シ

タルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常
ノ刑ヲ科ス

本條ノ大意 一定ノ身分アルニ依リ犯罪ヲ犯スノ例ハ少ナカラズ例ヘ

ハ收賄罪ハ公務員タル身分アルガ故ニ成立スルガ如シ此場合ニ身分ナキ普通
人ガ公務員ノ行為ニ加工シ助力シテ收賄シタル時ハ其者ハ共犯者トシテ處罰
スベキモノナリ

身分ニ因リテ特ニ刑ヲ加重スルハ尊屬親ヲ(第二百條)殺害スルガ如キ場合ニ其

共犯者ニ對シテハ尊屬ニアラザル故普通ノ刑ヲ科スト云フニアリ、減輕ノ場合亦同シ

第十二章 酌量減輕

本章ハ酌量減輕ノ規定ナリ即チ裁判上ノ減輕ノ規定ナリ、裁判官ハ法ヲ適用スルモ法ヲ作ラザルガ故規定ナケレバ減輕スルヲ得ズ又規定ナケレバ加重スルヲ得ズ裁判官ハ酌量スベキ情狀アルヤ否ヤノ事實ヲ認定シ之アリトセバ減輕ス

第六十六條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

本條ノ大意 本條ハ即チ裁判官ニ刑ノ減輕ヲ許シタル規定ナリ

犯罪ノ遠因其他總テノ事實ニ付キ情狀憫諒スベキモノト認定シタルトキハ其刑ヲ減輕スルヲ得ルナリ

其減輕ノ方法ハ次章ニ規定セリ

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍

ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

本條ノ大意 本條ハ前條ト同ジク裁判上ノ減輕ニ關スル規定ナリ

法律上ノ加重減輕ト裁判上ノ減輕トハ大ニ異ナルモノニシテ、法律上ノ加重減輕ハ法文ヲ以テ示セリ裁判上ノ減輕ハ本條及前條ニヨリテ減輕ス、裁判上ノ加重ナルモノハナシ法律ニヨル加重トハ再犯加重ノ如キ之ナリ法律ニヨル減輕トハ特別減輕自首減輕未遂犯ノ減輕從犯ノ減輕ノ如キ之ナリ

本條ハ是等ノ法律上ノ減輕又ハ加重ヲ爲ス場合ニ於テモ酌量減輕即チ裁判上ノ減輕ヲ爲スヲ得ルノ規定ヲ爲セリ、其何レヲ先ニシ何レヲ後ニシテ刑ヲ定ムベキヤハ次章ニ規定セル所ナリ

第十三章 加減例

本章ニ於テハ法律上ノ加減ノ方法及ビ法律上ノ加重減輕ト裁判上ノ減輕ト何レヲ先ニスベキヤノ順序ヲ定メタルモノナレバ之ニ從テノミ減輕又ハ加

重ヲ爲ス

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

- 一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス
- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ三分ノ一ヲ減ス
- 四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス
- 五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス
- 六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス

本條ノ大意

本條ハ法律上ノ減輕ノ場合ノ規定ナリ其加重ニ付キ規定ナキハ既ニ再犯ノ章及ビ併合罪ノ章ニ規定セルヲ以テナリ法律ニ依リ減輕スベキ數個ノ原由アルモ一度減輕スルニ止メ數度減輕セズ之レ刑法ハ刑ノ範圍ヲ廣クシ裁判官ヲ自由裁量ノ餘地ヲ擴大ナラシメタルヨリ生ズル結果ナリ(裁判上ノ減輕ハ本條ニ關係ナシ)本條ハ法律上減輕スベキ場合ノ刑ノ範圍ヲ定メタルモノニシテ別ニ説明ノ要ナシ唯刑名ヲ變更スルハ死刑ノ場合ノミニシテ懲役ヲ禁錮ニ禁錮ヲ懲役ニ變更スルヲ得ズ

第六十九條

法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

本條ノ大意

本條ハ二以上ノ刑名アル場合ニ如何ニシテ減輕スベキヤヲ定メタル規定ナリ

各本條ニ二個以上ノ刑名アルトハ例ヘバ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役(第四百十六條)ト云フガ如キ之ナリ斯ル場合ニハ先ツ其犯罪ニ死刑ヲ適用スベ

キヤ無期懲役ニ處スベキヤ有期ノ懲役ニ處スベキヤヲ決定シ然ル後第六十八條ノ方法ヲ以テ法律上ノ減輕ヲ行フベキモノナリ

第七十條 懲役禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

本條ノ大意 本條ハ減輕ニ依リ端數ヲ餘ス場合ニ如何ニ處置スベキヤヲ定メタルモノナリ

一日ニ滿タザル端數一錢ニ滿タザル端數ハ之ヲ除棄スベキモノトス

第七十一條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

本條ノ大意 本條ハ所謂裁判上ノ減輕ハ如何ニシテ爲スベキヤヲ定メタルモノニシテ裁判官ガ輕減シ得ルコトハ前章ニ規定セル所ナリ

裁判官ガ減輕スル場合ニ如何ナル範圍ニ於テ爲シ得ルヤハ全ク第六十八條ノ例ニ從ハザルベカラズ又端數ヲ生ジタル時如何ニスベキヤハ第七十條ニ從ツテ處置スベキモノニシテ其以上ハ之ヲ許サルモノトス

第七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

- 一 再犯加重
- 二 法律ノ減輕
- 三 併合罪ノ加重
- 四 酌量減輕

本條ノ大意 本條ハ同時ニ加重シ又減輕スベキ場合ニ何レヲ先ニシ何レヲ後ニスベキヤ其順序ヲ示シタルモノニシテ其順序ハ本條列記シタル順序ニ從フベキモノナリ

則チ茲ニ犯罪者アリ再犯ニ該當シ又併合罪ナルモ情狀ニ依リ酌量ノ餘地アル

時ハ先ヅ其基本タル刑ヲ定メ之ニ第一ニ再犯加重ノ規定ヲ適用シ第二ニ併合罪ノ規定ノ加重ヲ爲シ第三ニ裁判官ノ情狀ニ因リ酌量減輕セラレ再犯加重ト酌量減輕ノ二者ニ該當スル場合ニモ前者ヲ先ニシ後者ヲ後ニ適用シテ之ヲ定ムベキナリ

第二編 罪

第一章 皇室ニ對スル罪

本章ハ皇室ニ對スル犯罪ヲ規定セルモノニシテ、危害罪及不敬罪ノ二者アリ其被害者ハ天皇皇族ナリ

第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對

シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ危害罪ノ一ニシテ、危害ヲ加ヘントシタル者ニ對シ

テ科スル罪ノ規定ナリ、其被害者ハ 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シテノミ本條犯罪ハ成立スルモノナリ

(註解)

第一 天皇^{△△} トハ皇室典範ノ規定ニ基キ、皇位ヲ繼承シ賜フ萬世一系ノ統治者ヲ奉稱ス、外國ノ君主ハ包含セズ

第二 天皇太后 トハ天皇ノ御祖母皇ニ當ラセ賜フ御方ニシテ陛下ナリ
第三 皇太后 ハ先帝ノ皇后ニシテ天皇ノ御母皇ニ當ラセ給フ御方ヲ奉稱ス
第四 皇后 ハ詔書ヲ以テ皇后ナリト公布セラレタル御方ニシテ陛下ナリ
第五 皇太子 儲嗣タル皇子ニシテ詔書ニヨリ皇太子ト宣下アリタル御方ナリ

第六 皇太孫 トハ皇太子在ラセラレザル時ニ皇孫ノ中ヨリ特ニ儲嗣トシテ詔書ヲ以テ公布アリタル御方ヲ奉稱ス

第七 危害 トハ生命肉躰自由貞操ニ對スル傷害ニシテ名譽ニ對スルハ他ノ規定ニ從フベキモノナリ

第八 危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者危害ヲ加ヘトハ既遂罪トナルコト言フ待タズ加ヘントシタルトハ未遂及ビ其以下ノ陰謀豫備ヲ包含スルモノニシテ是等ノ犯罪ハ普通ノ場合ニハ未遂罪トシテ減等スベキモノナレドモ本條ハ未遂ニモ豫備ニモ減等ヲ與ヘズ一ノ罪トシテ重ク之ヲ罰スルモノナリ元來犯罪成立ニハ故意即チ罪ヲ犯スノ觀念ト此犯罪ヲ決行スル決意トアリ

テレ之ガ行動ニ顯ハレタル後ニ始メテ犯罪トナルガ故ニ觀念ト決意トアルモ未ダ行動ヲ採ラザル間ハ特ニ明文アル場合ノ外ハ犯罪トナラズ然ルニ本條ハ未ダ行動ニ顯ハレザル陰謀ヲモ罰スルモノト云ハザルベカラズ

第七十四條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ

本條ノ大意 本條ハ不敬罪ニ關スル規定ニシテ第一項ノ被害者ハ前條ニ同ジ

第二項ハ何ニ對スル犯罪ナリヤト云フニ學者間ニ議論ノ存スル所ナルモ余ハ神宮又ハ皇陵ハ其レ自体ニ於テハ名譽ニ關シテハ何等ノ法物ヲ有セズ間接ニ陛下ニ對シ不敬トナルガ故ニ罪セララルモノトスルヲ以テ適當ナル解釋ナリト信ズ

(註解)

第一 不敬ノ行為 トハ皇室ノ尊嚴ヲ汚瀆スル總テノ行為ヲ稱ス

施政上ノ行為タルト私行タルトヲ問ハス誹毀侮辱皇陵ヲ汚穢シ發掘スル等ノ行為總テヲ云フ

又消極行為トシテ敬禮ヲ行ハザルガ如キモ此犯罪ノ成立スルコトアリ

第二 神宮 ハ伊勢ノ神宮ヲ奉稱ス

第三 皇陵 天皇ノ御墳墓ヲ稱スルモノニシテ他ノ皇族ノ御墳墓ヲ包含セズ

第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ皇族ニ對スル危害罪ナルモ第七十三條ニ列舉セル皇族ハ總テ該條ニ依ルガ故其以外ノ皇族ニ對シテ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ニ適用スル條文ナリ
危害ノ意義ハ前々條ト異ナルナシ

第七十六條 皇族ニ對シ不敬ノ行為アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ大意 皇族ニ對スル不敬罪ノ規定ニシテ第七十四條ニ列記セル皇族ハ總テ本條ヨリ除外シ其他ノ皇族ニ對スル不敬ニ付キ本條ノ罪ハ成立ス不敬ノ實質ニ至リテハ第七十四條ノ不敬ト異ナルコトナシ

第二章 内亂ニ關スル罪

本章規定スル所ハ内亂ニ關スル罪ナリ内亂トハ何ヲ云フカ國家ガ國家トシテ存在スル以上ハ其内部ノ秩序ヲ維持シ外部ノ關係即チ外國トノ關係ニ於テモ一定ノ安固ヲ害スルヲ防グ方法ヲ講ゼザルベカラズ内部ノ秩序ヲ維持スルガ爲ニ憲法ニ對スル攻撃ヲ禁止セルモノ、中國權ノ主体ニ對スルモノハ前章ニ規定シ邦土及ビ憲法ニ對スル攻撃ニ付テノ處罰ヲ規定スルモノ即チ本章ナリ

第七十七條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ

左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス
- 二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス
- 三 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以上ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

本條ノ大意 本條ハ内亂罪ノ既遂及ビ未遂ノ規定ナリ、舊刑法ハ四ヶ條ニ涉レルヲ刑法ハ一ヶ條ニ包含セシメタリ

本條第一項ノ既遂犯罪成立スルニハ犯罪ノ原因ヲ一要素トセリ

原因トハ犯罪ヲ犯スニ至レル犯人ノ目的ニシテ左ノ如シ

- 一 國土ノ横領 即チ邦土僭竊
 - 二 憲法ノ變更 即チ政府顛覆、政體變更、皇統廢換ノ如キ之ヲ
- 以上ノ目的ノ一ヲ以テ暴動ヲ爲シタルコトヲ要ス
- 内亂ハ宣戰ノ布告ニ至ラザル國內ノ戰爭狀態ナルベキガ故ニ例令右ノ目的ヲ以テ暴動ヲ爲スモ宣戰ノ布告ヲ爲シ、戰爭ヲ開始セル時ハ交戰團體トシテ、國際法ノ原則ニ依リ支配セラレ刑法ノ適用ナキニ至ル、從テ是等ノ團體員ハ刑ヲ科スルヲ得ズ

(註解)

- 第一 朝憲紊亂** トハ不法ニ憲法ヲ變更スルノ意ニシテ、政府ヲ顛覆スルガ如キハ其一ナリ、茲ニ憲法ト稱スルハ實質的ノ憲法ヲ云フモノニシテ、憲法々典ヲ指スモノニアラズ、國家社會自體ノ秩序ヲ云フナリ
- 第二 邦土ノ僭竊** トハ國土ノ變更、横領ナリ、帝國主權ノ命令ヲ排斥スルヲ云フ
- 第三 暴動** トハ多衆共同シタル不法ノ腕力又ハ脅迫ヲ云フモノニシテ、即チ

二ノ要素アリ多衆ノ腕力又ハ脅迫ナルコト及ビ其レガ不法ナルコト之ナリ
或學者ハ内亂罪ニハ兵ヲ擧グルコトヲ要ストナスアリ
第四 首魁 トハ暴動團體中ノ事實上ノ最優者ニシテ或ハ最初ヨリ最優者タルモノアリ後ニ至リテ地位ヲ得ルモノアリ共ニ首魁タルヲ妨ケズ又一人ニ限ラズ

第五 謀議ニ參與シ トハ陰謀ニ與リタル者ヲ云フニハアラズ、樞要ノ機密ニ參與シタルモノニシテ參謀ノ行動ヲ執レルモノヲ云フ

第六 群衆ノ指揮ヲ爲ス トハ内亂軍ノ一方ノ隊長トシテ群衆ヲ指揮命令スル者ヲ云フモノニシテ外部ノ行動ニ付テ云フ

第七 其他諸般ノ職務ニ從事スル トハ重ニ前二者以外ノ内部ノ職務ニ從事スル者ヲ云フ例ヘバ醫務ニ從事シ輸送指揮ニ從フガ如キ之ナリ

第八 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル トハ一定ノ目的ナク他人ノ使喚等ニヨリ隨行シタルモノニシテ雜卒ノ類ハ總テ之ニ包含セラル、兵卒ヨリ雜役夫雇人ニ至ルマデ總テ之ナリ

第七十八條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ノ大意 豫備又ハ陰謀ハ他ノ犯罪ニ於テハ未遂ニモ至ラザル行爲トシテ之ヲ罰セザルモ本條ニハ特ニ明文ヲ以テ罰ス、本條ハ前條ノ豫備又ハ陰謀ヲ罰スルモノナルガ故、謀議ニ參與スルト陰謀トハ異ナルモノナリ
内亂ノ豫備ト見ルベキ場合ハ兵器金穀ヲ準備シ又ハ海陸ノ測量ヲ爲スガ如キ進發ノ準備等甚ダ多シ
内亂ノ陰謀トハ二人以上ノ者ガ内亂ヲ起スコトヲ約束スルヲ云フモノナリ

第七十九條 兵器金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ内亂罪又ハ其豫備罪ニ付テ幫助シタル者即チ從犯タルベキ者ヲ獨立ノ一罪トシテ處罰スルコトヲ定メタルモノニシテ、其幫助ノ方法トシテハ或ハ兵器ヲ供給シ又ハ金錢穀物服裝ヲ給與スルガ如キ又ハ豫備

陰謀ニ便ナル爲メ場所ヲ貸與シ諸種ノ周旋ヲ爲スガ如キ皆本條ニ合マル之ヲ要スルニ前條ノ犯罪行爲ヲ爲スモノタルヲ知リテ之ヲ幫助スル場合ニハ此規定ニヨリ處斷セラル、モ其者ニシテ内亂ヲ起スモノタルヲ知ラズシテ爲シタル時ハ犯罪トナラズ又其幫助者ハ内亂ヲ起ス者以外ノ人タルヲ要ス之レ從犯ナルガ故ナリ

第八十條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

本條ノ大意 前二條即チ豫備罪幫助罪ヲ犯スモ其内亂ガ未ダ暴動ニ至ラザル前ニ官廳ニ自首シタル時ハ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者又ハ幫助シタル者ノ罪ハ免ゼラル、モノナリ
如何ナル官廳ニ自首スレバ可ナルヤト云フニ自首ハ未ダ發覺セザル以前ニ犯人自ラ卒先シテ搜索權ヲ有スル官署ニ自首スベキナリ、搜索權ヲ有スル官署トハ警察署、検事局、憲兵屯所ノ如キヲ云フ、故ニ本條ノ要件ハ未ダ暴動ト認ムベキ行爲ニ至ラザル以前ニ自己ガ豫備又ハ陰謀ヲ爲シ又ハ幫助行爲ヲ爲シタルモ

此行爲ガ未ダ官署ニ發覺セザル以前ニ其豫備又ハ幫助行爲ヲ爲シタル犯人自身ガ自ラ卒先シテ搜索權アル官署ニ申告シ出ヅルヲ以テ刑ノ免除ヲ得ルモノナリトス

第三章 外患ニ關スル罪

前章ハ國家存立ノ内部ノ秩序維持ニ關スル規定ニシテ、本章ハ國家存立ノ外部ノ秩序維持ニ關スル規定ナリ、此二者相待ツテ始メテ國家ガ國家トシテ存續スルヲ得ルモノナリ

第八十一條 外國ニ通謀シ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

本條ノ大意 本條ノ罪ハ二ニ區別スルヲ得即チ

- 一 外國ニ通謀シ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメタル者
 - 二 敵國ニ與ミシテ帝國ニ抗敵シタル者
- 本法第二條ニヨル時ハ帝國外ニ於テ又何人ニモ此規定ヲ適用スルモノナレバ

帝國臣民ニ限ルモノニアラズ

第一ノ場合ノ犯罪成立要件ハ

(一) 外國ニ通謀シタルコト

外國トハ日本帝國以外ノ一權力ニヨリ統治セラルル、國家ヲ云フ、國際法上國家ト認メラレタル國家ニ限ル

通謀トハ同一ノ目的ニ向ヒ相互ノ意思ガ投合スルヲ云フモノニシテ、其相互ノ意思タル一方ハ外國ニシテ他ノ一方ハ犯罪者トナルベキ人ニシテ、日本人タルト外國人タルトヲ問ハズ

(二) 帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメタルコト、日本帝國ニ對シテ戰端ヲ開カシメタルコトヲ要ス

戰端ヲ開クトハ宣戰ノ布告ヲ爲スヲ云フモノニシテ、此布告ニ至ラザル暴動ノ程度ニアルモノハ本條ニ關セズ

第二ノ場合ノ犯罪成立條件ハ

(一) 敵國ニ與ミシタルコト

敵國トハ既ニ開戰以後ノ名稱ニシテ、開戰以前ニハ敵國ナシ、從テ本罪ハ開戰後ニノミ起ルベキモノナリ

與ミスルトハ合力シタルコトニシテ、外國ノ軍隊ニ投シタルコトヲ要セズ、又

通謀ト異ナル所ハ開戰前ナルト後ナルトニアリ

(二) 帝國ニ抗敵シタルコト

日本帝國ニ抗敵シタルコトヲ云フ

抗敵トハ兵器ヲ執テ敵對スルコトヲ云フモノニシテ、敵對スルノ狀況アレバ可ナルモノナリ、現實ニ敵對セザル本罪成立ス

本條ノ罪以下本章ノ總テノ罪ハ一私人又ハ私ノ團體トシテ爲ス場合ノ規定ナレバ、若シ戰時公法上敵國トシテ認メラレタル場合ニ其團體ノ組織ノ一員ガ交戰權活動ノ範圍内ニ於テ、是等ノ行爲ヲ爲スモ本罪ハ成立セズ例ヘバ敵國ノ俘虜ヲ本罪ヲ以テ罰スルヲ得ザルガ如キ之ナリ

第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑
又ハ無期懲役ニ處ス

本條ノ大意 軍用ニ供スル場所、建物、兵器、彈藥等ノ物品ヲ敵國ニ交付シ
タル場合ニ本條ノ罪ハ成立ス、犯人ハ日本人タルニ限ラズト雖モ、敵國人民ガ其
國ノ爲ニシタル場合ハ特種ノ場合ノミニ限ラルベシ

交付スルトハ引渡スノ意ニシテ所持ヲ移スノ意ナリ
死刑又ハ無期懲役ニ處ストハ裁判官ノ認定次第其情狀ニヨリ或ハ死刑ニ處ス
ルヲ得ベク或ハ無期懲役ニ處スルヲ得ルモノトシ、刑ノ適用ノ範圍ヲ廣ク示セ
ルナリ

條文中ニ其他トアルハ其以上ノ列記シタル物場所等ガ制限的ニ之ニノミ限ル
ト云フニアラズシテ例示的ニシテ是等ニ類スル總テヲ包含スルコトヲ示セル
ナリ

第八十三條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電
車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使

用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役
ニ處ス

本條ノ大意 本條ノ罪ハ三要件ヲ以テ成立ス

(一) 敵國ヲ利スル爲メ(即チ此目的ヲ以テ)ナルコト、此目的ヲ有セザル時ハ本罪
ヲ成立セシメズ

(二) 艦船、兵器、汽車、電線等其他軍用ニ供スル場所又ハ物ニ對スルコト

是等總テノ軍用ニ供スル場所又ハ物ニ限ラレ、軍用ニ供セザル場所又ハ物ハ
本條ニ依リテ罰スルヲ得ズ或ハ他ノ條ニヨリテ罰セラル、コトアルベシ

(三) 損壞又ハ使用スルコト能ハザルニ至ラシメタルコト

損壞トハ物ノ實質ノ全部又ハ一部ヲ毀壞シテ、物ノ效用ヲ失ハシムルヲ云フ
使用スルコト能ハザルニ至ラシムトハ使用スルヲ得ザル程度ニ至ラシメ又
ハ之ヲ使用スルニ著シテ困難ナル程度ニ至ラシムルヲ總稱スルモノニシテ
其物ヲ損壞スルト否トヲ問ハス損壞セザルモ、使用スルコト能ハザル程度ニ

至ラシムル場合ハ甚ダ稀ナラズ

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器彈藥其他直接ニ戰闘ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

本條ノ大意 帝國ノ軍用ニハ供セザルモ直接ニ戰闘ノ用ニ供シ得ル兵器彈藥等ヲ敵國ニ交付シタル場合ノ規定ニシテ帝國ノ軍用ニ供スル是等ノ物ヲ敵國ニ交付シタル場合ハ第八十二條第二項ニヨリ重ク處罰セラル、モノナリ
軍用ニ供スルモノハ平時ト雖モ軍用トシテ明カニ認メ得ラルベキモ戰闘ノ用ニ供スルハ平時ニ於テハ他ノ用法ニ使用スルヲ得ンガ故ニ相對的ニ時ニヨリ場所ニヨリ又其人ノ意思ニヨリテ定メザルベカラズ

第八十五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

本條ノ大意 本罪ノ成立條件ハ

- (一) 交戰中ナルコト、交戰中ニアラザレバ敵國ナル名稱ナシ、交戰中トハ戰爭ノ開始ヨリ媾和條約ノ批准ニ至ルマデニシテ其休戰休闘條約アルモ交戰中ト云フニ妨ゲナシ
- (二) 間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタルコト
間諜トハ公然戰闘者ノ一員トセズシテ敵情ヲ探知スルノ任ニ該ル者ニシテ斥候兵ノ如キハ之ニ入ラズ何國人タルヲモ問ハザルナリ
敵國ノ間諜ヲ幫助スルトハ其間諜ノ任務ヲ助成シ行動ヲ容易ナラシムルヲ云フ敵國ノ間諜ト云フモ敵國人タル間諜ト云フ意ニアラズ日本人ニシテ敵國ノ爲メ間諜ヲ爲スモノアレバ其間諜ヲ幫助スル人ハ又此罪ニ該當ス
- (三) 又ハ軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタルコト
軍事上ノ機密トハ軍事其他ノ事項ニシテ本國ガ外國トノ交戰上之ヲ秘密ニズルノ必要アルモノヲ總稱スルガ故策戰計畫戰時秘密條約等總テ之ニ屬ス

敵國ニ漏泄スルトハ未ダ其眞實ヲ知ラザルニ通報スルコトヲ云フモノニシテ其方法ハ問ハズ書面口頭暗號信號ニヨル等總テ可ナリ又敵國ニ通知スルニハ何人ニ對スルモ可ナリトス

第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ前五條ニ記載シタル其以外ノ方法ヲ以テスル外患ニ關スル罪ニシテ積極的ニ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與フル場合タルト積極的又ハ消極的ニ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタルト問ハズ本罪ヲ構成ス前者ノ例ヲ示セバ故意ヲ以テ敵國ニ道路航路等ノ状態ヲ知ラシムルガ如キモノニシテ後者ノ例ハ故意ヲ以テ軍隊ニ供給スベキ軍需品ヲ毀棄シテ軍備ノ欠乏ヲ來サシメ又ハ敵國ノ爲メニ殊更ニ軍用品ノ供給ヲ遲延セシメタルガ如キ之ニ屬ス

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ノ大意 未遂罪ノ何タルヤハ既ニ前ニ述べタル所ナリ未遂罪ヲ罰スルニハ明文ナカルベカラズ本條アルガ故外患ニ關スル罪ノ未遂ハ罰セラレ未遂ヲ罰スルニハ減輕スベキモノニシテ中止犯ノ場合ニハ免除スルコトヲモ得ベシ未遂ト第七十三條未段ノ未遂トヲ比較スルニ此第七十三條未段ノ如キハ未遂罪ナルモ本刑ト同様ニ重ク罰スルモノニシテ普通ノ未遂ト同様ニ取扱ハザルコトヲ示セルモノナリ

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
本條ノ大意 犯罪ハ行爲ナルガ犯罪ニ既遂未遂等數多ノ階級アリ犯罪ノ既遂ヲ行爲ノ終局ト見ル時ハ(一)犯罪ノ表示(二)豫備行爲(三)着手行爲(四)實行々爲トナス

- (一) 犯意ノ表示トハ單ニ罪ヲ犯サントノ意思ヲ發表スルモノニシテ其方法ニヨリ時ニ或ハ犯罪トナルモ一般ニハ犯罪成立セズ新聞紙條例三十二條等アリ

陰謀ハ犯意ノ表示ニ外ナラザルモ他人ニ向テ特定ノ犯罪ヲ犯サントノ意思ヲ表示シ他人ガ之ヲ承諾シタル場合ニ陰謀ト云フ故ニ漫然犯罪ヲ犯スコトヲ約スルモ陰謀ニアラズ必ズ或特定ノ犯罪ニ對スルコトヲ要ス

(二) 豫備行為ハ陰謀ヲ除ク外實行ノ着手以前犯意ノ表示タル一切ノ動作ヲ云フモノニシテ其例ハ内亂罪ニ示セルガ如シ

(三) 着手ハ實行ヲ組成スル各舉動及ヒ實行ニ近接密着シタル各舉動ヲ云フモノニシテ犯意ヲ識別シ得ル程度ニ至レルモノハ着手ニシテ之ニ達セザルハ豫備ナリ又實行ノ危険迫レルモノハ着手ナリ

豫備ハ原則トシテ之ヲ罰セズ罰スベキ時ハ必ズ明文ニヨル本條ハ豫備ヲ罰スルモノナリ

第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行為ニ亦之ヲ適用ス

本條ノ大意 本章即チ第三章ノ外患ニ關スル罪ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル是等ノ行為ニ付テモ處罰セラルモノナリ即チ戰時同盟國ニ抗敵シ

又ハ戰時同盟國ノ軍機ヲ漏泄スルガ如キ者ニ對シ適用アルモノトス

戰時同盟國ニハ二國以上ガ共ニ主戰者タルト又一國ハ援助者タルニ過ギザルトノニアルモ共ニ本條ニ云フ同盟國ナリ

戰時同盟國ハ條約ニヨリテ生ズルモノニシテ其内容ハ條約ヲ待タザルベカラズ

戰時同盟ハ平時ヨリ生ズルコトアリ戰爭開始中ニ生ズルコトアリ第八十一條前段ノ如キハ開戰前ヨリ生ジタル戰時同盟國ニ對スル行為ニ付キテ處罰セラ

ルモノト云フベシ

第四章 國交ニ關スル罪

文明國間ニ於テハ國家ハ國家トシテ總テ對等ノ地位ニアリ亦國家トシテ宇内ニ存在スル限リハ國家ハ實際ヲ爲サルベカラズ國家ガ實際ヲ爲スニハ常ニ一定ノ規則ニ支配セラルト雖モ亦互ニ禮儀ヲ以テ相交ラザルベカラズ

本章規定スル所ハ實ニ國際間ノ禮儀ニ關スルモノト規則慣例ヲ破ル個人ヲ

處罰スルニアル

第九十條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

本條ノ大意

外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ犯ス犯罪ニシテ帝國ニ滞在スルコト及ビ暴行又ハ脅迫セルコトハ本罪成立ノ要件ナリ

第二項ニ於テハ帝國ニ滞在スルコト及ビ其被害者ハ外國ノ君主又ハ大統領ナルコト侮辱ヲ加ヘラレタルコト外國政府ノ請求アリタルコトヲ要件トス是等要件ノ一ヲ缺ク時ハ處罰スルヲ得ズ

(註解)

第一 帝國ニ滞在スルトハ帝國ノ領域内ニ滞在スルコトニ限ルヤト云フニ帝

國ノ領域内ハ勿論公海ニ於ケル帝國船舶内ニ於テモ本條ノ適用アルベキモ外國ノ領海内ニ在ル日本船舶内ニ於テセル場合ハ日本人ナル時ハ本條ハ適用シ外國人ナル時ハ本條ノ適用ナキモノト信ス

滞在スルトハ現在スルノ意ナリ

第二 外國ノ君主又ハ大統領 其ニ外國ノ國家最高機關ノ意ニシテ其名稱ノ如何ハ問フ所ニアラズ國王タリ皇帝タリ侯タルモ可ナリ要スルニ最高機關タルヲ要スルガ故名稱同ジキモ本條ニ入ラザルモノ多シ羅馬法王蒙古王ト云フガ如キ之ナリ

第三 暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルコト

暴行トハ反抗ヲ抑制スル爲メ人ノ身体ニ對シテ用フル不法ノ腕力ナリ故ニ所有シタル物ニ對スルモ暴行ト云フヲ得ズ身體ニ對スル以上ハ間接ナルト直接ナルトハ問ハザルモ單ニ精神ニノミ反抗ヲ抑制スルニ足ルガ如キ感想ヲ懷カシムルハ暴行ニアラズ脅迫トハ人ヲシテ害ヲ受ケントノ畏怖心ヲ抱カシムルヲ云フモノニシテ各

場合ニ應ジテ被脅迫者ノ精神ノ反抗ヲ抑制スヘキ程度ニアルヤ否ヤヲ標準トシテ決セサルベカラズ脅迫ハ無形ノ暴行トモ稱スルモノニシテ其精神ノ反抗ヲ抑壓スル程度ガ暴行ヲ加ヘラレタルト相匹敵スル程度ニアラザヤ要ス

第四 侮辱ヲ加フルトハ其地位ニ對スル威信ヲ毀損スル行爲ニシテ文書圖書ヲ以テスルト言語暗號ヲ以テスルトヲ問ハズ又第三者ガ存在スル場合タルト否トヲ問ハザルナリ

一定ノ地位ヲ有スル人ニ對シテハ侮辱罪ハ成立シ得ルコトハ後ニ述ブベシ

第五 外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ズ

本規定ガ親告罪ノ告訴ト同性質ノモノナルヤ否ヤハ疑問ナルモ例令外國政府ガ處罰ノ請求ヲ爲スト雖モ親告罪ノ告訴ト見ルニ差シタル不都合ナカルベシ果シテ然ラバ現行刑事訴訟法ノ上ヨリスレバ訴訟條件ナリ故ニ此請求ヲケレバ檢事ハ起訴スルヲ得ズ起訴後拋棄セル時ハ訴訟ハ終了シ確定ス

外國政府トハ其侮辱セラレタル君主又ハ大統領ノ屬スル國家ノ政府ノ意ナリ然ラバ如何ナル官廳ニテモ可ナルヤト云フニ特ニ條約等ヲ以テ明カニセ

サル以上ハ唯ダ外交ノ機關タル外務部ニ於テスルニ限ルベシト信ズ

第九十一條

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

本條ノ大意

本條ハ前條ニ準ジタル規定ニシテ唯ダ被害者タルベキ者ガ異ナルノミ帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節トハ其一時的ニ任命セラレタル特派使節タルト永久的ノ性質ヲ有スル大使公使代理公使ノ如キモ可ナリト雖モ隨員從者家族及ビ領事ノ如キハ本條ニ入ラズ代理公使ハ其代理タル間ノ此規定ニ因ル

如何ナル使節ガ日本帝國ニ派遣セラレタルヤハ國書ノ捧呈又ハ代理公使ノ如キハ外務省ニ通知シテ後始メテ之ヲ知ルベキモノナルモ今ヤ通信機關ノ發達セル任命アレバ直ニ之ヲ知ルヲ得ベキガ故ニ公知ノ事實トシテ國書捧呈前ニ

於テモ之ヲ認ムルニ不可ナルコトナシ
被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ズルハ親告罪ナリト云フベシ

第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗
其他ノ國章ヲ損壞除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役
又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪
ヲ論ス

本條ノ大意 本條ノ罪ノ成立スルニハ次ノ要件ナカルベカラズ

- (一) 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的アルコト
- (二) 其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞除去又ハ汚穢シタルコト
- (三) 外國政府ノ請求アリタルコト

之ナリ
國旗ハ國家ヲ代表スルノ徽章ト同ジク各國尊重セザルナシ國旗ハ國章ノ一ナ
リ我國々章トシテハ旭日ノ旗菊ノ御紋ノ如キアリ各國皆之ヲ有ス之等ヲ損壞

スルハ器物ノ毀棄ナルモ本條ヲ以テ特ニ一定ノ目的ヲ以テセル場合ニ處罰方
法トシテ規定セルナリ

損壞ハ前ニ述ベタル如シ

除去ハ掲揚シタル國旗其他ノ國章紋章ヲ取り除クヲ云フモノニシテ損壞ト異
ナル

汚穢スルトハ汚物ヲ以テ塗沫スルガ如キヲ云フモノニシテ廣義ノ損壞ノ一ナ
ルベキモ唯ダ表面上ノ汚染ニシテ見テ以テ不快ヲ感ザシムルガ如キ程度ニア
ラバ可ナルベシ

第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又
ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自
首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

本條ノ大意 本條ハ外國ト私戰ヲ爲スヲ禁止シタルモノニシテ其豫備

又ハ陰謀ヲモ罰スルコトヲ得ル規定ナリ

公ニ戰爭ヲ爲スハ國家又ハ交戰團體ニシテ私ニ戰鬪ヲ爲スハ私人又ハ私人ノ團

体ナリ、戦闘ト戦争トハ異ナルモノナリ、戦争ハ國家間又ハ交戦團體トシテ承認セラレタルモノ、間ニノミ行ハレ且多クハ布告ヲ發ス、戦闘ト一般ニ稱スル時ハ戦争中ノ個々ノ活動ニ付テアリ得ルモ、本條ノ戦闘ト稱スルハ一方ノ相手方ガ私又ハ私ノ團體ニシテ活動スル腕力ノ争ヒニ過ギズ

自首トハ前述セル如ク搜索權アル官廳ニ申告スルヲ云フモノニシテ、之ガ刑ヲ免除スルハ豫備又ハ陰謀ニ止マルガ故ニ其害甚シカラザルヲ以テナリ

進ンデ外國ニ對シ私ニ戦闘ヲ爲シタル者ハ或ハ外國ノ内亂罪トシテ外國ニ於テ置罰セラル、コトアルベク又殺人等ノ行爲アリタル時ハ日本人ナル時ハ殺人罪トシテ問ハル、コトアルベシ

第九十四條 外國交戦ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ外國ト外國ノ間ニ交戦中局外中立ノ布告ニ違反シタル場合ノ處罰ニシテ、外國ガ交戦中ナルト休戦中ナルトヲ問ハス常ニ局外中立ノ布告ニヨリテ決セラルベキモノニシテ、局外中立ノ命令違反者ニ適用セラ

ルベキモノナリ

局外中立ハ布告セラル、モノナレバ實際ニ於テハ開戦ニ遅ル、モノナリ、此場合モ開戦後ナルヲ口實トシテ罰スルヲ得ズ

局外中立ヲ布告セル場合ニハ如何ナル行爲ガ命令違反ナルヤハ國際公法ノ原則ニ從フベキモノニシテ、其布告中禁止事項ヲ列記セル時モ其以外ノ禁止命令ハ國際公法ニヨリテ尙ホ存在スルモノナリ

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

公務トハ公務員ノ職務ニシテ公務員ノ何タルヤハ前ニ説明セリ、是等公務員ガ其職務ヲ執行スルヲ妨害スル罪ハ即チ本章ニ規定スル所ニシテ、公務員ノ職務ハ各公務員ニ各其範圍アリテ此範圍ヲ犯越シタル部分ハ公務員ノ職務ト云フヲ得ズ然レドモ公務員ニアラザル者ガ公務員ノ職務執行ニ干與シタル場合ニハ間接ニ公務員ノ職務執行ヲ爲スモノナル故其妨害ニ本章ノ適用ヲ受ク

第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行
 又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ
 又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同
 ジ

本條ノ大意

本條ハ公務員ガ職務執行ヲ爲スニ當リ暴行脅迫ヲ加ヘ又
 ハ暴行脅迫ヲ以テ不當ノ處分ヲ爲サシメ又ハ正當ノ處分ヲ爲サ
 ヲラシムカ其
 職ヲ辭セシメントノ目的ニ出デタル場合ニ關スル罪ナリ
 其職ヲ辭スルトハ辭職ノ意ノミニアラズシテ單ニ其執行セントスル職務ノ執
 行ヲ辭スルノ意ヲ含ム例ヘバ議員ガ採決ノ場合ニ出席セントスルヲ之ニ加ハ
 ラシメザル目的ヲ以テスルガ如キ之ナリ
 暴行脅迫ハ前ニ説明セシ所ナリ
 茲ニ注意スベキハ本條第一項ハ公務員ガ其職務ヲ執行ニル際ナルコトヲ要ス

故ニ公務ヲ執行セザル時又ハ私用ノ爲ニスル事務ヲ行フ場合ニハ本罪ヲ成立
 セシムルコトアルベシ
 第二項ニ於テ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲サザラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシ
 ムル爲メトアルハ犯人ガ暴行又ハ脅迫ヲ爲ス目的即チ遠因ヲ要件トセルモノ
 ニシテ本項ハ職務執行ノ際ニ限ルモノニアラザルガ故此等ノ目的ヲクシテ爲
 シタル暴行又ハ脅迫ハ他ノ罪ヲ成立セシムルコトアルベキモ本罪ハ成立セシ
 メズ

第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ
 又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者
 ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ大意

本條ハ公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又
 ハ無効タラシメタルノ罪ニシテ次ノ要件ヲ以テ成立ス
 (一) 公務員ガ其權限ニ於テ爲シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ

(一) シ得ル標示ナル時ハ其方法ハ封印ノ形状ヲ備フト否トヲ問ハス
 (二) 損壞又ハ其他ノ方法ヲ以テ無効タラシメタルコト、封印又ハ差押ノ效力ヲ無効タラシムルニ於テハ損壞スルト其他ノ方法ヲ採ルトヲ問ハザルモノトス例ヘバ封印アル船舶ヲ其マ、使用スルモ本條ニ該當スルモノナリ

第六章 逃走ノ罪

本章ニ於テハ逃走ニ關スル罪ニシテ之ヲ逃走スル罪及ビ逃走セシムル罪ノ二トナスコトヲ得ベシ其本罪ヲ犯スモノハ既決囚未決囚被拘禁者又ハ他人ナリ

第九十七條 既決未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲

役ニ處ス

本條ノ大意 本罪構成ノ要件ハ二アリ

- (一) 既決未決ノ囚人タルコト
- (二) 逃走ノ所爲アルコト

之ナリ
 囚人トハ法令ニ依リ監獄ニ拘禁セラル、モノニシテ既決囚人トハ刑罰執行ノ爲ニシ未決囚トハ犯罪審理ノ爲ニセラル、モノナリ

精神病者監置處分ノ爲メ一定ノ場所ニ拘禁セラル、者ハ本條ニ入ラザルハ言ヲ待タズ懲治場ニ留置セラル、者及ビ戰時ノ捕虜ノ如キ亦然リ

獄舎ニ拘禁セラレテヨリ適法ニ解放セラル、マデノ身分ナリ故ニ事實上時ニ或ハ獄舎ヲ出ツルコトアルモ拘禁ト云フニ妨ゲナシ例ヘバ一時裁判所ニ護送セラル、場合ノ如シ

逃走トハ法令ノ執行上囚徒ヲ監督スル者ノ監督區域ヲ脱出スルヲ云フ、必ズシモ獄内ヨリ獄外ニ逃ル、ヲノミ云フニアラズ、一ニ監督力ノ及ブト否トニヨリ定マル

第九十八條 既決未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者

拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處

本條ノ大意 日本條ノ罪ノ構成要件ハ...

(一) 拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シタル...

(二) 逃走ノ所爲ナルコト...

之ナリ (三) ハ手段トシテ用ヒタルコトヲ要ス

(註解)

第一 勾引狀ハ執行 勾引ハ訊問ノ目的ヲ以テ被告人ヲ裁判所ニ出頭セシム...

第二 拘禁場又ハ械具トハ監督官吏ノ實力ヲ補フ爲ニ設備セルモノ又ハ械具...

第三 拘禁場又ハ械具トハ監督官吏ノ實力ヲ補フ爲ニ設備セルモノ又ハ械具...

第九十九條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ...

三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ大意 本條ノ罪ハ被拘禁者以外ノ者ガ犯ス場合ノ犯罪ニシテ其...

行爲ハ被拘禁者ヲ奪取スルニアリ

奪取ハ被拘禁者以外ノ者ガ故意ヲ以テ被拘禁者ヲ其監督者ノ監督區域ヨリ脱...

セシムルヲ云フモノニシテ監督ノ職責アル者ガ爲ス場合ハ本條ニ入ラズ

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ハ前ニ述べタル囚人ヨリモ其範圍廣ク適法ニ拘...

禁セラレタル者ノ總テヲ包含ス故ニ懲治場ニ入レアル者等ヲ包含ス

第一百條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ...

以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シ...

タル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五...

年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ逃走ヲ幫助シテ容易ナラシムル行爲ヲ爲シタル者ニ科スル刑罰ナリ、二ノ要件ヲ以テ成立ス

- (一) 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ニ出デタルコト
- (二) 器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲スコト

第二項ノ犯罪ガ成立スルニハ

- (一) 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ニ出デタルコト
- (二) 暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルコト

其詳細ハ前既ニ説明セル所ナリ

第一百一條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲

役ニ處ス

本條ノ大意 本罪ハ被拘禁者ヲ監督スル者ノ犯セル犯罪ナリ

本罪ノ成立要件ハ

- (一) 犯罪ノ主体ハ法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者タルコト
- (二) 被拘禁者ヲ逃走セシメタルコト

本條ニ於テ一ノ疑問トナルハ看守者ガ自己ノ懈怠ニヨリテ被拘禁者ヲ逃走セシメタル時ハ本條ノ罪ニ該當スルヤ否ヤ舊刑法ニ於テハ第五十條ニ明文アリシモ新刑法ニハ明文ナシ文理解釋ヨリスル時ハ恰モ本條ニ包含セラレタルガ如キモ余ハ新刑法ニハ削除セラレタル者トスルヲ至當ノ見解ナリト信ズ

第一百二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ノ大意 既遂未遂ノ區別ハ前ニ述べタル所ナリ、本章即チ第九十八

條ヨリ第一百二條ニ至ルマデノ犯罪ハ未遂ノ場合ニモ罰セラル。モノナリ

第七章 犯人藏匿及ヒ證據湮滅ノ罪

本章ニハ犯人ヲ藏匿シ官ノ搜索權ヲ害スル行爲及ビ證據ヲ湮滅スルヲ罰スル規定ヲ爲セリ

第二百三條 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ藏匿又ハ隱避ヲ罰スルモノニシテ其成立要件ハ

- (一) 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ニ對スルコト
- (二) 以上ノ者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタルコト

犯人ガ罰金以上ノ刑ニ該ル犯罪ヲ犯シタルヤ否ヤハ藏匿行爲ヲ爲ス當時ニハ知ルヲ得ズ判決ヲ待ツテ後之ヲ知ルヲ得ベシ故ニ藏匿者ガ此者ハ罰金以上ノ

刑ニ該ル犯罪者ナリト思考シ藏匿スルモ若シ科料ニ該當スルモノナル時ハ處罰セラレズ藏匿トハ發見ヲ避クル匿レ場所ヲ給與スルノ意ニシテ其場所ニハ制限ナシ
隱避トハ藏匿以外ノ方法ヲ以テ犯人ノ發見逮捕ヲ妨害スル行爲ナリ潜伏ノ場所方法ヲ教示スルガ如キモ可ナリトス

第二百四條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證據ヲ湮滅シ又ハ偽造變造シ若クハ偽造變造ノ證據ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ他人ノ刑事被告事件ニ關スル證據ヲ湮滅又ハ偽造變造スルガ如キ有罪ノ證據物件ノ發見ヲ妨害スルニ因リ成立ス
本罪成立ノ要件ハ

- (一) 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證據ナルコト、自己ノ刑事被告事件ニ關スルモノヲ合マズ又被告事件ハ裁判所ニ起訴セラレタル以後ニ始メテ付セラルル名稱ナルモ被告事件トナルベキ性質ノモノタル以上ハ起訴前ナルモ可ナ

ルニシト信ズ
證憑トハ事實ノ眞否ヲ確定スベキ爲メニ用ヒラル、證據物件(檢證ノ目的物)及ビ證書證憑ノ如キモノヲ稱スルガ故其意義廣シ例ヘバ足跡血痕ノ如キモノ又證憑ナリ

(二) 湮滅又ハ偽造變造シ若クハ偽造變造ノ證憑ヲ使用シタルコト

湮滅ハ滅盡スルコトヲ意味セズ單ニ其證據物件ノ發見ヲ不能ナラシムルハ勿論困難ヲ増加セシムルガ如キモノ亦之ヲ湮滅ト稱スルヲ得ベキモノナリ
偽造變造ノ意義ハ後ニ第十六章ニ於テ詳論スベキモ此二者ノ區別ハ偽造ハ其材料ヲ他ノ物ニ取り履セ作りスルコトニシテ變造ハ其材料ヲ同物ニ取り之ヲ變更スルニ外ナラザルナリ

本條ハ眞實ヲ發見スル爲メニ用フル證據物證憑等ヲ湮滅又ハ偽造變造シテ其目的ヲ達スルヲ得ザラシムル者及ビ偽造變造シタル證憑ヲ使用シテ眞實發見ヲ困難ナラシメ又ハ謬ラシムルガ故ニ設ケタル規定ナリ

第一百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ

逃走者ノ利益ノ爲ニ犯シタル時ハ之ヲ罰セズ

本條ノ大意 犯人藏匿又ハ證憑湮滅ニ關スル罪ノ除外例ハ即チ本條ナリ

本條ノ適用ヲ受クル爲メノ要件ハ

(一) 本章規定ノ罪即チ第三百三條第四百條ノ犯罪ナルコト

(二) 行爲者ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ナルコト、親族ノ何タルヤハ民法ニヨリテ定マルモノニシテ三アリ

(イ) 六親等内ノ血族

(ロ) 配偶者

(ハ) 三親等内ノ姻族

之ナリ

(三) 犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲ニ犯シタルコト 即チ遠因アルヲ要スルナリ

第八章 騷擾ノ罪

本章ハ舊刑法ニ所謂兇徒聚衆罪ナルモノニシテ、大ニ研究ヲ要スル犯罪ナリ

公ノ平和ヲ害スル罪ニシテ一定ノ手段ヲ採ルガ故ニ本章ノ罪トナル
第六條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ
罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ
六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ大意 騷擾罪ハ積極行爲ニヨルト消極行爲ニヨルトノニアリ、本
條ハ前者ニ屬シ次條ハ後者ニ屬ス

- 本條ノ罪ノ成立要件ハ
- (一) 多數衆合シタルコト
- (二) 衆合シテ暴行又脅迫ヲ爲シタルコト之ナリ

(註解)

多衆聚合 人數ニ制限ナキガ故其果シテ多數ナルヤ否ヤハ事實審判官ノ認定
ニヨル外ナシ

暴行大ハ脅迫ハ前ニ述ベタリ、

或他ノ目的ヲ以テ正當ニ集合シ後目的ヲ變シ此要件ヲ具備スルニ至レバ本罪
ヲ構成ス處分ニ付テノ名稱ヲ説明スレバ次ノ如シ

首魁トハ多數人ノ首領ニシテ衆合者ヲ指揮統帥スル地位ニアル者ナリ一人タ
ルコトアリ數人共同シテナスコトアリ

他人ヲ指揮スル トハ首魁ノ下ニ屬スルモノニシテ群集ノ徒トノ中間ニ位ス
ベキモノニシテ暴行脅迫ノ指揮ヲ爲ス者ナリ

他人ニ率先シテ勢ヲ助ケル トハ犯意ヲ決心セシムルトハ異ナルモノニシテ
既ニ決意アルヲ前提トシ其實行ヲ助ケルニアリ

附和隨行スル トハ一定ノ目的ナク唯ダ他人ノ使喚又ハ好奇心ニ因リ衆合シ
タル者ヲ云フモ故意ヲ以テ暴行脅迫ニ干與セザルベカラズ然ラザレバ本條ニ
該當セズ

第七條 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セザルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ大意 本條ノ犯罪成立ノ要件ハ

- (一) 暴行又ハ脅迫ヲ爲スノ目的即チ遠因ニ出デタルコト
- (二) 多衆聚合シタルコト
- (三) 當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受ケタルコト
- (四) 尙ホ命令ニ反シ解散セザルコト即チ不作爲犯トナルナリ、命令ヲ遵守セザルガ故ニ
- (五) 三回以上解散ヲ命セラレタルコト

當該公務員トハ暴動鎮撫ノ任ニアル公務員ヲ云フモノニシテ、是等ノ職權ヲ有之ナリ

セザル公務員ノ命令ニハ服従スルノ義務ナキモノナリ、換言スレバ治安警察ノ任ニアル公務員ヲ總稱ス即チ府縣知事警察官等ノ如キ之ナリ、

第九章 放火及ヒ失火ノ罪

放火ハ故意ヲ以テ火ヲ放ツ行爲ニシテ、失火ハ故意ナク自己ノ過失ニヨリ火ヲ失スル行爲ナリ、

火ハ其レ時ニ依リ強大無限ノ力ヲ擅ニ働カシムルモノニシテ、數萬ノ財產モ一朝ニシテ烏有ニ歸セシムルガ如キコトアリ或目的ヲ以テ放火スル者アルガ如キハ吾人ノ屢々聞ク所ナリ故ニ本章ハ比較的詳細ノ規定ヲ設クルニ至レリ、

第八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、瀛車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ放火罪ノ重キ場合ノ規定ナリ、其放火スル物、体ハ此

列舉シタル物ニ限ルヤ他ノ物ヲモ包含スルヤト云フニ余ハ是等ハ制限的ノ物

ナリト解ス

本條ノ罪ノ成立要件ハ次ノ如シ

- (一) 火ヲ放チタルコト及ビ燒燬シタルコト
- (二) 現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スルコト
- (三) 建造物、電車、電車、艦船、鑛坑ナルコト

之ナリ

(註解)

第一 燒燬 火ヲ放テ如何ナル程度ニ達シタル時燒燬ト云フヲ得ベキヤ換言
スレバ燒燬ノ既遂未遂ノ分ル、所如何ト云フニ犯人ニ依テ附ケラレタル火
ガ其介物タル燃料ヲ離レテモ尙ホ獨立シテ其燃燒力ヲ繼續シ得ヘキ狀況ニ
達シタル時ヲ以テ既遂トス

第二 人ノ現ニ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スルコト 現ニ住居ニ使用セル時
ハ其放火ノ當時人ガ現在セザルモ可ナルモノニシテ又人ガ現在セル時ハ住

居ニ使用セザルモノナルモ可ナリ

第三 建造物 土地ニ定着シ家根及牆壁ヲ有シ人ノ出入ニ適スル建築物ヲ總
稱ス

門戶牆壁ノ如キハ獨立シテ建造物ト云フヲ得ズ

第四 艦船 軍艦及船舶ノ意ナリト雖モ船舶ハ其意義極メテ廣ク掃海艇ノ如
キモノヲモ包含ス

第五 鑛坑 鑛山ノ坑口、坑内等ニ設備セラレタル總テノ定着物ヲ稱スルモノ
ナリ石炭坑内ノ石炭ニ放火スルガ如キモ本條ニ包含セラルベシ、人ノ現在セ
ザル廢坑ノ如キハ本條ニ關係ナシ

茲ニ一言スベキハ本條ニ云フ人ノ住居ナル意義ナリ、人トハ犯人以外ノ人ヲ云
フニアラズ人類ノ意ナリ故ニ自己ノ住居スル建造物ニ放火スルモ、本條ノ適用
ヲ受クベシ

第一百九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セザ
ル建造物、艦船、若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲

役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危険ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

本條ノ大意 前條ハ人ノ住居ニ使用シ又ハ現ニ人ガ在ル場合ノ規定ナリ本條ハ之ト反對ナル場合ナリ從テ其罪輕シ本條ノ犯罪ノ構成要件ハ

- (一) 火ヲ放チテ燒燬シタルコト
- (二) 人ノ住居ニ使用セズ又ハ人ノ現在セザルコト其内ニ現在セザルヲ要ス
- (三) 建造物艦船鑛坑ノ一ナルコト

前條ト本條トヲ比較スルニ汽車及ビ電車ヲ除外シタリ現ニ人ノ在ラザル汽車電車ハ單ニ器物トシテ第一百十條ニ因リ處斷セザルベカラズ

本條ノ罪ノ處分ニ付テハ二ノ制限アリ原則トシテ二年以上ノ有期懲役ニ處スベキモ以上列舉セル燒燬物ガ放火者自己ノ所有物ナル時ハ六月以上七年以下

ノ懲役ニ處スベク尙ホ公共ノ危険ヲ生ゼザル時ハ罰セラレザルナリ之レ自己ノ所有物ヲ自己ガ燒燬スル場合ニハ公共ノ危険アル外之ニ干渉スルノ必要ナケレバナリ其燒燬スベキ物ガ他人ノ賃セルト否トハ問ハザルモノナリ公共ノ危険ハ如何ナル程度ニ於テ生ズルヤハ全ク當該公務員タル官吏ノ認定ニ因ラザルベカラズ危険ト實害トハ區別スベク危険ハ現實ニ損害ノ生ジタルコトヲ要セズ實害ノ生ズル虞アル行爲ハ一般的ニ危険ト云フヲ得ルナリ

第一百十條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ大意 火ヲ放テ前二條記載以外ノ物ヲ燒燬シタル場合ノ犯罪ハ本條規定ニ從テ處斷スベキモノニシテ其動産タリ不動産タルハ敢テ問フ處ニ

アラズ
本條ノ犯罪ノ成立條件ハ

- (一) 前二條記載以外ノ物ヲ燒燬シタルコト前二條記載以外ニハ動産アリ、不動産アリ、不動産ノ例ハ圍牆、電柱ノ如キモノニシテ動産ニ至リテハ甚ダ多シ、人ノ現ニ在ラザル氣車、電車ノ如キモ本條ニ包含セラル
 - (二) 因テ公共ノ危險ヲ生ゼシメタルコト犯罪ノ既遂トナルハ多クノ場合ニハ實害ノ發生ヲ要件トスルモ、法律ハ特ニ實害ノ生スル危險ヲ發生セシメタル時ハ之ヲ犯罪ノ既遂トシテ處斷スルコトアリ、本條ノ如キハ其適例ナリ
- 本條ノ處罰ハ其燒燬シタル物ノ所有者ノ異ナルニヨリテ區別アリ
- (一) 本條ニ該當スル物ノ所有者ガ燒燬者以外ノ人ナルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處セラル
 - (二) 本條ノ燒燬物ノ所有者ガ燒燬者自身ナルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處セラル

第百十一條 第百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第

百八條又ハ第百九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ一定ノ物件ニ延燒セシメタルコトヲ一ノ要件トセ
ルモノニシテ其構成要件ハ次ノ如シ

- (一) 第百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シタルコト
 - (二) 因テ第百八條又ハ第百九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルコト
- 之レ本條第一項ノ犯罪構成ノ要件ナルガ其第二項ノ犯罪構成要件ハ次ノ如シ
- (一) 前條第二項ノ罪ヲ犯シタルコト
 - (二) 因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルコト
- 本條ハ學者ノ所謂結果犯ニシテ放火犯人ガ其延燒物ヲ燒燬スルノ意思ヲ以テ放火シタル時ハ本罪ヲ構成セズシテ其燒燬物ニヨリ或ハ第百八條第百九條第

一項等ノ犯罪ヲ構成ス

然レドモ犯罪ハ故意ヲ以テ成立ス(一般ニ)ルガ故故意ナクハ本罪ヲ成立セシメズ、犯人ノ意思ガ延焼ニ付テ何等ノ觀念モ全クナカリシ時ハ或ハ過失ニヨル失火罪ヲ構成スベキコトヲルベキモ本條ニ依ルヲ得ズ、不確定ノ故意即チ或ハ延焼スベシトノ觀念アル時ハ本條ノ犯罪ハ成立スルモノトス

第百十二條 第百八條及ビ第百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ノ大意 本條ハ未遂ヲ罰スルノ規定ニシテ放火罪ノ未遂ハ如何ナル程度ニ於テ既遂ト區別スベキカハ前ニ述べタル所ナルガ、此燒燬ノ既遂未遂

ハ學者ニ議論ノ存スル所ニシテ未ダ定説ト稱スルニ至ラズ
或ハ燒燬ノ目的物ガ火力ノ爲メ大部分ヲ失ヒタル時トナス説アリ或ハ犯人ニ依テ附ケラレタル火ガ其媒介物タル燃料ヲ離レテ獨立ニ其燃燒力ヲ繼續シ得

ベキ狀況ニ達シタルトヲ以テ既遂トスルアリ或ハ目的物ガ燃出シタル時ヲ以テスルアリ余ハ第二説ヲ可ナリト信スルコト前ニ述べタリ

第百十三條 第百八條又ハ第百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ

テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

本條ノ大意 本條ハ一定ノ目的ヲ以テ爲ス犯罪ノ豫備ヲ處罰スル規定ナリ、豫備ノ何タルヤハ前ニ述べタル所ナリ

凡ソ罪ヲ犯スニハ其犯人ニ一定ノ原因アリ又其原因ニ原因アリ之ヲ遠因ト云フ、即チ遠因ハ原因ノ原因ナリ決意ヲ爲ス理由ナリ事實上犯罪ノ遠因ハ殆ンド千變萬化ナレド刑法ノ原則トシテ之ヲ不問ニ付スト雖モ、裁判官ガ刑罰ヲ科スル場合ニハ大ニ之ヲ斟酌ノ材料トナサザルベカラズ、又特ニ明文ヲ以テ犯罪決意ノ理由即チ遠因ヲ以テ犯罪構成又ハ刑罰加重ノ要件トナセルアリ、何々ノ爲ニ又ハ何々ノ目的ヲ以テトアルハ總テ此遠因ヲ一要件トナセルナリ
法文目的トアルハ遠因ノ意ナリ、目的ト遠因トノ間ニハ區別ナシ

第百十四條 火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役

ニ處ス

本條ノ大意

本條ハ鎮火ヲ妨害スルニ因リ成立スル犯罪ナリ

本條ノ犯罪ノ構成要件ハ

- (一) 火災ノ際ナルコトヲ要ス 火災ノ際トハ發火ノ即時ヨリ鎮火ノ時又ハ火災消滅ノ時マデノ間ナルヲ要ス、火力ガ最早消防ノ效ナキニ至レルマデ燻ナル後ト雖モ可ナリ、其原因ノ放火、失火ヲ問ハス
 - (二) 鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テセルコト 鎮火用ノ物トハ物件ノミニ限ラズ設備ニテモ可ナリ、其性質上常ニ鎮火用ニ供セラシム、唧筒ノ如キモノト、其火災ノ當時ニノミ鎮火用トシテ使用シ得ベキ梯ノ如キモノタルトヲ問ハズ、設備ト稱スルハ井戸ノ如キモノニシテ火災ノ際其使用ヲ妨害スルガ如キ亦本罪ヲ構成ス之レ妨害ノ手段ナリ
- 損壞ノ意義ハ前ニ述ベタリ
- 隱匿トハ發見ヲ妨グル行爲ニシテ、物ニ對シ其發見ヲ妨グル場合ナリ、人ノ發見ヲ妨グルトハ文字上區別シ藏匿ト稱セリ隱避ハ人ヲシテ發見ヲ妨グシム

ル行爲ナルモ隱避セシメラル、ハ人ニシテ其人自身ノ動作ノ加ハルニアルモ、隱匿ハ物ノ發見ヲ妨グルニアルガ故總テノ動作ガ隱匿セル人ノ動作ナリ使用ヲ妨害シテ使用ヲ不可能ナラシメ又ハ著シク困難ナラシムハ隱匿ニハ包含セラレズシテ、其他ノ方法ヲ以テテ爾文字ノ中ニ含マル

- (三) 鎮火ヲ妨害シタルコト 犯人ハ鎮火ヲ妨害スルノ意思ヲ以テ(即チ故意鎮火ヲ妨害シタルコトヲ表ス、此意思ナクシテ爲スモ本條ノ罪ハ成立セズ

第百十五條 第百九條第一項及ヒ第百十條第一項ニ記載シタル

物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

本條ノ大意

本條ハ自己ノ所有ニ係ル場合ニ於テモ一定ノ要件ヲ備フル時ハ之ヲ重ク罰スルノ規定ナリ

本條ノ適用ヲ受クルニハ

(一) 第九條第一項及第十條第一項記載ノ物ガ自己ノ所有ナルコト
 (二) 差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタルモノナルコト
 (三) 是等ノ物ヲ燒燬シタルコト

之ナリ

差押ハ民事訴訟法ノ規定ニヨリ執達吏ノ爲スモノナリ、稅務官吏等ノ爲ス封印

ト異ナルコトハ明カナリ

物權ヲ負擔スルハ當事者ノ意思ヲ以テ或ハ法律ノ規定ヲ以テ負擔スルモノニ

シテ例ヘバ抵當權ヲ負擔セル物件ノ如キ之ナリ

貸貸ハ當事者ノ契約ヲ以テ成立スルモノナリ一定期間内物ノ使用ヲ爲サシメ

報酬ヲ得ルヲ云フ

保險モ當事者ノ契約ヲ以テ成立スルモ其一方ノ相手方ハ常ニ保險會社ナリ

本條ノ處分ハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同ジ、換言スレバ第九條第二

項第十條第二項ヲ適用セザルナリ

第一百十六條 火ヲ失シテ第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ

所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第一百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

本條ノ大意、本條ハ失火ノ罪ノ規定ナリ即チ過失ニ因テ火ヲ發スル罪ナリ

過失ハ認識スルコトヲ要シ且認識スルコトヲ得ル事實ヲ認識セサルヲ云フモノニシテ犯意ヲ要セザルナリ不注意ヲ以テ骨子トナス、不可抗力トハ區別ムベキモノニシテ何程ノ注意ヲ用フルモ知り得ベカラザル事實ハ普通ノ觀念ニ於テハ過失ト稱スルコトアルモ刑法ノ觀念ニ於テハ過失ニアラズ過失即チ不注意ノ程度ハ人ニ依リテ異ナル例ヘバ甲ハ細心留意ノ性質ナルモ乙ハ是等性質ヲ有セザルガ如キ之ナリ、然ラバ過失ナルヤ不可抗力ト見ルベキヤハ何ヲ標準

トシテ區別スベキノ問題ヲ生ズベシ之ニ三說アリ本人ノ性質ヲ標準トシ定ムベシトナス(主觀說)一般人ノ性質ヲ標準トスベシ(客觀說)トナシ又外部ノ狀況ハ客觀的ニ注意シ得ベキ狀況ニアリヤ否ヲ標準トシ刑法上ノ過失ノ有無ハ本人ノ智能ヲ標準トシテ定ムト(折衷說)ナス余ハ第一ノ說ヲ可ナルモト信ズ然ラバ茲ニ失火アリ甲ガ其性質ニ於テ不注意ト認ム可ラザルニ於テハ不可抗力トシテ過失ノ失火罪ハ成立セザルモ、乙ガ同一狀態同一程度客觀的ニノ注意ヲ拂ヘリトスルモ、其乙自身ノ性質ニ比シテ不注意アリタリトスレバ失火罪ヲ構成シ得ルモノナリ

本條ニ關スル他ノ點ハ前數條ニ說明セル所ヲ參照シ一讀セバ了解シ得ベキガ故茲ニ說明セズ

第十七條 火藥、瀆罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第十條ニ記載シタル物ヲ

損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ
前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

本條ノ大意 本條ハ火ヲ以テ損壞スルニアラズシテ、激發スベキ物ヲ以テ破裂セシメテ損壞スル場合ノ犯罪ナリ第四章ノ規定ニ入ラザルハ其手段ガ異ナル爲ニシテ放火失火ノ例ニ準ジタルハ其危險ノ度大ナルヲ以テナリ

本條第一項ノ罪ハ成立要件ハ

- (一) 損壞シタルコト
- (二) 一定ノ物ヲ損壞シタルコト
 - 一定ノ物トハ左ノ一ニ該當スルヲ要ス
 - (イ) 第八條ニ記載シタル物
 - (ロ) 他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物
 - (ハ) 自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタルコト

(三) 第一百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生ゼシメタルコト
 (三) 損壞ノ手段トシテ火藥、瀝、鏝、其他激發スベキ物ヲ破裂セシメテ爲ンタルコト
 之ナリ、本條ノ手段トスル火藥、瀝、鏝等ハ例示ニ過ギサルガ故、激發スベキ物タル
 以上ハ何品タルヲ問ハス

本條第二項ハ過失罪ナリ、過失ニ付テハ前ニ述べタル所ナリ、第一項ノ損壞ガ過
 失ニヨル破裂ノ爲ニ發生セル時ハ失火ノ例ニ依據シテ處斷セラル、不可抗力ニ
 ヨリ、斯ル結果ヲ發生スルモ何等犯罪ヲ構成セズ、不可抗力ト過失トヲ區別スル
 標準ハ前ニ述ヘタリ、此標準ヲ以テ何レニ屬スベキカハ裁判官ノ認定スル所ニ
 依テ處斷セラル、モノト知ルベシ

第一百十八條 瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ
 之ヲ遮斷シ、因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生ゼシメタ
 ル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ
 因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ、重キニ從テ
 處斷ス

本條ノ大意 本條モ放火モ火ニハ何等ノ關係ナキモ、其危險ノ大ナルハ
 放火失火ト選ブ所ナキガ故ニ本章ニ規定セルモノナリ
 本條ノ罪ノ構成要件ハ

- (一) 瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ以テセルコト
 - (二) 漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シタルコト
 - (三) 因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生ゼシメタルコト
- 漏出ハ出ヅベカラザル所ヨリ出ヅルノ意ニシテ流出ハ適當ノ出ヅベキ場所ヲ
 定メアルモ一定ノ時ノ外ハ出デシメザルモノ即チ時ノ觀念ニ於ケル禁止ナリ
 液体氣體等ノ如ク出ヅル物ニヨリ付スル名稱ニアラズ
 遮斷トハ流通スベキ所ヲ流通セシメザルノ意ナリ

因テトハ之ガ原因トナリテトノ意ニシテ此原因ニヨリ危險ナル結果ヲ生ズルヲ云フナリ
本條ノ處分ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ナルモ其第二項ニ於テ異ナル所アリ即チ前述ノ所爲ヲ以テ人ヲ死傷セシムルノ結果ヲ生ジタル時之ナリ人ヲ死傷ニ致ストハ其人ハ犯人以外ノ人タルヲ要ス犯人ガ死傷ヲ受クルモ本罪ヲ成サス死傷ニ致ストハ結果犯ノ場合ヲ云フモノニシテ犯人ガ豫メ此結果ノ發生ヲ確信シテ爲シタル時ハ或ハ他罪ヲ成立セシムベシ重キニ從テ處斷ストハ二者ノ各本條ノ罪ヲ比較シ重キ方ヲ採用シ處分スルノ意ナリ

第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

本章規定スル所ハ溢水セシメ又ハ水利ヲ妨害シタル罪ナリ

第一百九條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、瀛車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又

ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ溢水セシメテ一定ノ物ヲ浸害シタル場合ノ犯罪ノ規定ニシテ其構成要件ハ次ノ如シ

- (一) 溢水セシメタルコト 溢水トハ一定ノ容器ニ充滿シテ後堪ヘズシテ流出スルヲ稱スルハ本來ノ意義ナルモ本條ノ規定ノ意義ハ斯ク狹義ノモノナラズ故ニ本罪ハ溢水ヲ防ガザル消極行爲溢水セシムル積極行爲ノ二者ヲ包含スルモノト信ズ
 - (二) 現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、瀛車、電車若クハ鑛坑ヲ害シタルコト
 - (三) 浸害シタルコト(即チ結果之ナリ)
- 浸害ハ浸潤シテ害ヲ生ズルヲ云フモノニシテ水ノ性分ヨリ來ル害及ビ水力ヨリ來ル害ヲ總稱ス

第一百二十條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ害シ

因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲
役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ物權ヲ負
擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例
ニ依ル

本條ノ大意 本條ノ犯罪構成要件ハ次ノ如シ

第一項ノ犯罪成立條件ハ

(一) 溢水セシメタルコト

(二) 前條記載以外ノ物ヲ浸害シ然モ其物ハ犯人自己ノ所有ニアラザルコト

(三) 浸害ノ結果公共ノ危険ヲ生セシメタルコト

第二項ノ犯罪成立條件ハ

(一) 溢水セシメタルコト

(二) 浸害シタル物が自己ノ所有ニ係リ然モ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃

貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ノ一ナルコト及ヒ前々條列記以外ノ物ナ
ルコト

(三) 浸害ナル結果ヲ生ジタルコト
之ナリ

第二百一十一條 水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ
其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下
ノ懲役ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ第一百十四條ニ對應スル規定ニシテ防水ヲ困難又ハ
不能ナラシメタルヲ處罰スル規定ナリ

本條ノ犯罪ノ成立要件ハ

(一) 水害ノ際ニナシタルコト

(二) 水防ヲ妨害シタルコト

(三) 妨害ノ手段ハ制限ナシ防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法

ヲ以テスル可ナリ

本條字句ノ意義ハ前章ニ述ベタル所ヲ參照セラレベシ

第二百二十二條 過失ニ因リ溢水セシメテ第十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ大意

本條ハ過失犯ナリ、失火罪ニ對應ス、過失犯ヲ罰スルハ其罪

ノ點ニ重キヲ置キ人ヲシテ法意ノ上ニ注意ヲ拂ハシメントスルニアリ

本條モ積極消極ノ二行爲ニヨリ犯サレ得ベシ即チ過ツテ溢水セシムルト自己ノ不注意ニ依リ溢水ヲ知ラザリシ爲ニ生ズルト之ナリ

第二百二十三條 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壊シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ大意

本條ハ前數條ト趣ヲ異ニシ恰モ未遂タルガ如キ狀態ニア

ルヲ未遂トセズ獨立ノ罪トシテ處罰スルニアリ、妨害又ハ浸害ノ如キ犯人ノ意思ニ於ケル結果ハ之ヲ必要トセズ、法ノ要求スル結果ヲ以テ既遂トナルモノナリ、本條ノ罪ヲ以テ結果ナキ犯罪ト云フ勿レ、第十九條等ニ比シ恰モ未遂タルガ如キ外觀アルノミ

本條ノ犯罪構成要件ハ

(一) 水利ノ妨害トナルベキ行爲又ハ溢水セシムベキ行爲アルコト

(二) 堤防決潰水閘破壊其他ノ手段ヲ以テ爲シタルコト
之ナリ

法文決潰破壊ト云フモ其意義同一ニシテ物ノ實質ヲ害スルヲ云フ、唯ダ堤防、水閘ニ對スルガ故ニ文字ヲ區別セルニ過ギズ

水閘トハ水門樋ノ類ヲ包含シ水ヲ導ク爲ニ施シタル工事ヲ指ス

本條ノ罪ハ實害ヲ處罰スルニアラズシテ危險ヲ以テ犯罪ノ既遂トナスコトニ注意スベシ

第十一章 往來ヲ妨害スル罪

本章ハ廣ク往來ニ關スル妨害ヲ處罰スル規定ニシテ、或ハ往來セラルベキ公用物私人ノ有スル交通機關等ニ至ルマデ之ヲ規定セリ、又直接ニ往來ノ用ニ供セザル器具設備ノ如キモ本章ニ依リテ處斷スベキアリ、又他ノ章ニ依ルベキアリ

第二百二十四條 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ノ大意 本條ノ罪ノ成立スルニハ

(一) 陸路水路又ハ橋梁ニナシタルコト

(二) 往來ノ妨害ヲ生セシメタルコト

(三) 妨害ノ方法ハ損壞又ハ壅塞ニヨルコト

之ナリ

本條第二項ノ刑罰加重ハ第一項ノ犯罪ヲ犯シ之ニヨリ人ヲ死傷ニ致シタル場合ニ適用シ兩條ヲ比較シ重キ方ノ刑ヲ科スルニアリ刑法ハ陸路水路橋梁ノ三者ヲ舉ゲタルガ舊刑法ハ河溝港埠等ヲモ列記セリ、余ノ信ズル所ニヨレバ刑法ノ意義ハ廣ク之ヲ解スベク港埠ノ如キハ陸路ニ包含セシムベク棧橋ノ如キハ橋梁ノ一ナリト信ズ、然レドモ鐵道ヲ架セル橋梁ハ鐵道ノ一部ト見ルヲ得ベキカ

妨害ハ交通ニ適當ナル性質ノ全部又ハ一部ヲ不能又ハ著シク困難ナラシムルヲ以テ足り、實際ニ此禍ヲ受ケタル者アルヲ要セザルモノトス

犯人ノ意思ハ往來ヲ妨害スル目的ニ出デタルコトヲ要セズ

刑法ノ用語ノ例トシテ損壞ハ實質上ノ毀損ヲ意味シ性質上ノ毀損ハ此文字ヲ用ヒザルガ如シ

塞ハ閉塞ノ意ニシテ陸路水路橋梁ニ通シ爲シ得ベキモ損壞ノ如ク實質ヲ毀損スルコトナク性質上往來ヲ不能ナラシムルモ之ヲ除去スル時ハ何等實質上ノ毀損ナキニ至ルモノナリ

第二百五條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ瀛車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

本條ノ大意 本條モ交通機關ノ損壞等ニ因リ往來ノ危險ヲ生セシメタルヲ處罰スルモノニシテ其構成要件ハ次ノ如シ

- (一) 瀛車、電車、艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタルコト
- (二) 鐵道又ハ其標識燈臺浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テシタルコト

本條ニ鐵道ノ中ニハ電車ノ軌道ヲモ包含スベキモノト信ス

第二十六條 人ノ現在スル瀛車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ覆沒又ハ破壞シタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ノ大意 本條ノ罪ハ顛覆覆沒破壞ノ行爲ニアリ今其構成要件ヲ示セバ

- (一) 人ノ現在スルコト
- (二) 顛覆、破壞、覆沒ノ一ナルコト
- (三) 瀛車、電車、艦船ノ一ニ對スル行爲ナルコト

本條第三項ハ所謂結果犯ノ規定ナリ

第二百二十七條 第二百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ瀛車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

本條ノ大意 本條ハ亦結果犯ノ規定ナリ第二百二十五條ノ罪ヲ犯シタルニ其結果トシテ瀛車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ノ結果ヲ生ジタル場合ニ科セラル、モノナリ

第二百二十八條 第二百二十四條第一項、第二百二十五條及ヒ第二百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ノ大意 本條ハ未遂ヲ罰スル規定ニシテ別ニ説明スルノ要ナシ
第二百二十九條 過失ニ因リ瀛車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ瀛車、電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
其業務ニ従事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ

禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ過失犯ナリ

第二項ハ其業務ニ従事スル者即チ特別ノ關係ヲ有スルガ故ニ普通人ヨリモ層一層ノ注意ヲ要スルガ故ニ特ニ之ヲ重ク罰スルモノナリ
過失犯ハ前ニ説明シタル所ヲ参照スベシ

第十二章 住居ヲ侵ス罪

住居ノ安全ハ憲法ニ保障アリテ國家ト雖モ法律ニ依ルニアラザレバ之ヲ犯スラ得ズ況ンヤ一私人ニ於テヤヤ

本章ハ之ガ安全ヲ保タンガ爲メノ規定ナリ

第二百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建築物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ積極行爲及ビ消極行爲ニヨリ犯サレ得ル犯罪ナリ

本條ノ犯罪ノ構成要件ハ

- (一) 故ナク即チ不法ナルコト
- (二) 侵入(即チ積極行爲)又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セザルコト(消極行爲)
- (三) 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅建造物若クハ艦船ニ於テ爲シタル行爲ナルコト

(註解)

第一 故ナク ハ其管理者ノ意思ニ反シ爲ス即チ不法ニノ義ナレバ權利者ノ爲スハ包含セザルナリ、巡查憲兵卒ノ令狀執行等ノ如キ之ナリ

管理權ハ一定ノ場所的範圍ヲ有シ其以外ニ及バサルガ故其範圍以外ニ於テハ本罪ヲ構成セズ

管理權ノ場所的範圍内ニ於テモ管理者ハ明示ノ承諾又ハ暗黙ノ承諾ヲ以テ一定ノ場所ニ出入ヲ許ス所ニハ本罪成立セズ

例ヘバ門口ヨリ玄關ニ至ル間ノ如キ之ナリ、然レド一定ノ牆壁柵ノ如キハ之

ヲ要セズ又一家屋内ノ各房ニ於テモ他人ノ管理スル場所ニハ本罪ヲ成立セシメ得

第二 侵入 管理者ガ侵入ヲ禁スル意思表示ト侵入者ガ侵入禁止ノ意思ヲ覺知シ得ベク且覺知シタルヲ要ス

第三 退去 初メ適法ニ入り來レルモノ退去ヲ命ゼラレ不法ニ退去セザル場合ニ本罪構成ス、不法ニ侵入シ退去ヲ命セラレ不法ニ退去セザルモノニ罪トナラズ

第三百三十一條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

本條ノ大意 本條ハ侵入シタル物体ノ異ナルニ依リ特ニ刑ヲ重カラシメタルモノニシテ其犯罪ノ構成要件ハ

(一) 故ナクナシタルコト

(二) 侵入シタルコト
 (三) 皇居、禁苑、離宮、行在所、神宮、皇陵ノ一ニ侵入シタルコト
 之ナリ

皇陵ハ天皇ノ御陵ニ限リ他ノ皇族ノ御陵ヲ含マズ
 看守者アリテ退去ヲ要求セラレ退去セザル場合ハ前條ニ依テ處罰セラレ、モ
 ノナルベシ

第三百三十一條 本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(説明ヲ略ス)

第十三章 秘密ヲ侵ス罪

法ハ一定ノ場合、一定ノ事實ノ秘密ヲ要求シ一般人ニ又ハ特定人ニ秘密ノ義
 務ヲ負ハシム、本章規定スル所ハ其義務ノ違反ニアリ

第三百三十三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年
 以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ大意 憲法ニ信書秘密ノ侵サレザル規定アリテ國家ハ之ヲ侵ス
 ヲ得ザリシモ一私人ノ之ヲ犯ス時ノ制裁ニ付テハ其規定ヲ欠ケリ、本條ハ之ヲ
 補ヘルナリ

本條ノ罪ノ成立要件ハ

- (一) 開披シタルコト
- (二) 故ナク開披シタルコト
- (三) 封緘シタル信書ヲ開披シタルコト
 之ナリ

(註解)

第一 開披 封緘ノ效力ヲ失ハシムル場合ヲ總稱スルモノニシテ、其物質的損
 害ノ有無ハ之ヲ問ハズ

第二 封緘シタル信書ナルヲ要スルガ故はがきノ如キハ含マレズ、然レドモ電
 報ノ如キモ可ナリトス、
 信書ナルヲ要スルガ故例令封緘ヲ施セルモノモ、信書ニアラザル小包郵便ノ

如キハ本罪ヲ構成セズ

本條ノ全体ヨリシテ其信書ノ内容ノ秘密ヲ保護スルニアレバ、單ニ信書ノ授受アリタルガ如キハ本條ニヨリ罰スルヲ得ズ

本條ノ罪ハ秘密ヲ保護スルニアルモ、其犯罪ノ既遂ハ開披ナル行爲ニヨリテ成立シ、秘密ヲ他人ニ漏シタルト否トハ問ハズ

第三百三十四條 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人、又

ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

本條ノ大意 本條ハ一定ノ職ニアル者ガ其職務上知り得タルコトニ付

キ、秘密ヲ守ラシムルモノニシテ、特ニ秘密ヲ守ルベキコトヲ依頼セラレタルト否トハ之ヲ問ハズ、其構成要件ハ、次ノ如シ

(一) 人ノ秘密ヲ漏泄スル行爲アルコト

漏泄トハ未ダ其事實ヲ知ラザル他人ニ知ラシムル行爲ヲ意味ス、既ニ知リタル者ニ告グルハ漏泄ニアラズ、其方法ハ文書タルト口頭タルトヲ問ハザルモノニシテ、文書ヲ以テスル場合ニ於テ相手方ニ到達セザル以前ニ於テモ既遂罪ハ成立スベシ

(二) 其業務上取扱ヒタル事ニ付キ知得タル事柄ニ關スル秘密ナルヲ要ス

自己ノ業務上取扱ヒタルニアラズシテ他人ヨリ傳聞シタルコトノ如キハ本罪ヲ構成セズ

(三) 一定ノ職ニアル者又ハ嘗テ在リシ者ノ其業務上取扱ヒテ知得シタルコトニアラザレバ本罪ヲ構成セズ

一定ノ職ニアル者トハ法文ニ列舉セル者ニ限ル即チ醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人、宗教若クハ禱祀ノ職ニアル者ヲ云フ

以上ノ職業ニ從事スルハ多クハ一定ノ資格ヲ有スルヲ要スル故明カニ知ルヲ得ルモ、藥種商ハ唯ダ藥種ヲ販賣スル總テノ者ヲ指シ、辯護人トハ民刑訴訟ニ於テ許サル、一時的ノモノニシテ、宗教齋禱ノ職ニアル者トハ牧師、僧侶、神官是等ニ類スル者ヲ稱ス

(四) 故ナク漏泄シタルコト、即チ不法ニ爲セルナリ

第三百二十五條 本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ノ大意 本章ハ親告罪ノ規定ナリ、告訴ナケレバ本罪ハ處罰セラレズ

親告罪ノ告訴ハ之ヲ拋棄スルヲ得ベク拋棄セバ裁判確定シ訴訟終了ス
親告罪ノ告訴ハ訴訟條件ナレバ裁判所ニ起訴スルニハ必ず告訴アルヲ要ス

第十四章 阿片煙ニ關スル罪

本章ハ阿片ニ關スル規定ナリ、阿片ハ之ヲ吸食スル時ハ漸次其害ヲ來シ終ニ人ヲ斃スルニ至ル故ニ之ヲ取締ルニアリ、然レド阿片ト阿片煙トハ全ク異ナ

リ阿片ハ許可ヲ得テ之ヲ輸入シ所持スルヲ許セリ

第三百三十六條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ阿片煙ヲ以テ一定ノ行爲ヲ爲スニヨリ成立スル犯罪ナリ

本條ノ犯罪成立條件ハ

- (一) 阿片煙ヲ目的物トスル行爲ナルコト
- (二) 輸入製造販賣又ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スルコト

本條ノ罪ノ成立ハ以上ノ行爲ヲ法令ニヨリ又ハ處分ヲ以テ許可セラレタル者ニ對シテハ成立セザルモ阿片トハ全ク異ナル
又單ニ阿片煙ヲ所持スルノミニシテハ本罪ハ成立セズ必ず販賣ノ目的ヲ以テ

所持スルヲ要ス而シテ第四百十一條ノ罪ハ成立スベシ
本條ノ場合ノ阿片煙ハ犯罪ノ組成物トシテ附加刑ヲ以テ沒收セラルベキモノトス

第三百三十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ大意 阿片煙吸食ノ器具ニ關スル規定ナリ
本條ノ罪ノ成立條件ハ

- (一) 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ目的物トスルコト 其物ノ性質ガ本來之ヲ吸食スルニ使用セラルベキ物ナルコトヲ要ス
- (二) 輸入製造販賣又ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スルコト之ナリ

(註解)

第一 輸入 外國ヨリ内國ニ荷揚ノ目的ヲ以テ内國ニ入ラシムルヲ云フモノニシテ其既途トナルハ内國ノ領海ニ入りタル時ニアリ

第二 販賣 ハ賣却スルノ意ナルモ法ノ禁止セルモノナレバ法律上ハ賣却ニアラズ唯ダ賣却ノ外形ヲ存スルノミ
賣却ニハ賣人ト買人トアリ本條ノ罪ハ賣手ニ付テ成立シ買手ニ付テハ何等ノ制裁ナキモ若シ買手ニシテ販賣ノ目的ヲ以テ買受ケタル時ハ所持者トシテ處罰セラル

第三百三十八條 税關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許可シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ其犯罪者ハ一般人ニアラズシテ税關官吏ナリ然レドモ税關官吏ガ普通人ト共謀シテ此犯罪行為ヲ爲シタル時ハ總則第六十五條ニ依據シ共犯者トシテ共ニ處罰セラル

本條ノ罪ノ構成要件ハ

(一) 犯罪主体ハ税關官吏ナルコト

税關官吏ハ其任命ニヨリ取得スル資格ナルガ故税關官吏トシテ任命セラレシ以後解職マデノ間ノ者ナリ官吏ノミニ限ルガ故ニ雇員補助者ノ如キハ不可ナリ

(二) 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ其目的物ト爲シタルコト

(三) 輸入シ又ハ其輸入ヲ許可シタルコト

之ナリ

第三百二十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處

ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ阿片煙ノ吸食及ビ之ヲ幫助スル罪ナルモ幫助ヲ從

犯トセズ特ニ重ク罰スルノ必要アルヲ以テ規定ヲ設ケタルナリ
第二項ノ罪ハ成立條件ハ

(一) 阿片煙ヲ吸食スル爲メナルコトヲ知リテ給與セルコト

(二) 房屋ヲ給與シタルコト

(三) 利ヲ圖リテ給與シタルコト 故ニ利ヲ圖ラズシテ單ニ阿片煙吸食ノ爲メ房屋ヲ給與スルモ本條第二項ニ因ラズ從犯ヲ以テ處罰スベキナリ給與ハ貸與贈與賣買等ヲ含ム

第四百十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ

一年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ單ニ所持スルニ因リ犯罪トナルモノニシテ若シ之

ニ一定ノ條件加ハル時ハ加重セラレ即チ販賣ノ目的ヲ以テ所持セル時ハ第三百三十六條第三百十七條ニヨリ處罰セザルベカラズ

本章規定ノ阿片煙及其吸食器具ハ犯罪ノ組成物ナリト知ルベシ

第四百十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(説明ヲ略ス)

第十五章 飲料水ニ關スル罪

本章ハ人ノ飲料ニ供スル水ニ關スル規定ニシテ其流水タルト湧水タルト溜水タルトハ之ヲ問ハズ又公衆ノ用ニ供スル飲料水ナルト然ラザルトヲ問ハザルモノトス

第四百二十二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用井ルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ大意 本條ノ淨水ハ水道又ハ其水原ニ於テスル場合ニハ適用ナ

シ
本條ノ犯罪成立要件ハ

- (一) 人ノ飲料ニ供スル淨水ナルコト
- (二) 之ヲ汚穢シタルコト 汚穢ハ人ノ五感ノ力ヲ以テ知り得ル程度ニ水質ヲ

變ゼシメタルコトニシテ毒物ヲ以テセル場合ハ汚穢ト見ルヲ得ベキ時ト云ヘドモ本條ニヨラズ

- (三) 因テ用キル能ハザルニ至シシメタルコト 之レ即チ結果ナリ
- (四) 人ノ飲料ニ供スル淨水ナルヲ知テ犯人ガ汚穢シタルヲ要ス 之ヲ知ラズ又此意思ナクシテ汚穢スルモ本罪ヲ成サズ之ナリ

本條ハ結果犯ナリ用ヒル能ハザルニ至ラシムル確定ノ意思ヲ要セザレバナリ

第四百二十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用井ルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ其害前條ヨリ廣キガ故ニ重ク處罰ス之亦結果犯ナ

リ
本條ノ罪ハ成立要件ハ

- (一) 水道ニ由ルベキ水ナルコト
- (二) 公衆ニ供給スル水ナルコト
- (三) 飲料ノ淨水又ハ其水源ナルコト
- (四) 汚穢シタルコト
- (五) 因テ之ヲ用ルコト能ハサルニ至ラシメタルコト(即チ結果)之ナリ

用キルコト能ハザルニ至ラシムルトハ現實ニ用キル能ハザルコトヲ云フニアラズ用キル能ハザル狀況ニ至ラシムレバ可ナルモノニシテ用キルトハ使用ニアラズ飲料トナス能ハザルニ至ラシムルナリ故ニ他ノ用ニ供セラレ得ルモ其結果ノ生ジタリト云フヲ妨グズ

第四百十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ大意 本條ハ毒物其他之ニ類スベキ物ヲ用キタル場合ニシテ前條ノ汚穢水ト雖モ人ノ健康ヲ害スルコト明カナルモ唯其使用物ニ付キテ本條

ノ如ク重ク處罰スルナリ
本條ノ犯條ハ成立要件ハ

- (一) 人ノ飲料ニ供スル淨水ナルコト 水道ニ因ルモノハ除外ス前條ニアリ
- (二) 毒物其他之ニ類スベキ物ヲ混入シタルコト

(註解)

第一 毒物僅少ノ分量ニテ化學的影響ニ因リ人ヲ傷害シ又ハ死ヲ致スベキ物

ヲ云フ故ニ硝子粉ノ如キ化學的作用ヲ起サ、ルモノ又ハ化學的作用ヲ起スモ其分量大ナルガ爲ニ影響アル酒精ノ如キハ毒物ト云フヲ得ズ

第二 其他人ノ健康ヲ害スベキ物 トハ毒物ニ類スベキ物タルヲ要スルハ重ク處罰スルヨリシテ之ヲ知ルヲ得ベシ例ハ細菌ノ如キモノナリ

第三 混入 ハ混合ノミニ限ラズ化學的作用ヲ起ス化合ノ如キモ可ナリ

第四百十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス